



ヤマハスポーツ新時代

機は熟した スポーツバイク需要

新発売! GX400/GX250 RD50 GT50/GT80

3

機は熟した
いま上向きのスポーツバイク需要

実感・体感、この確かさ
意欲もりあがる78商戦の展開

6

8 4月号専門誌はニューヤマハスポーツオンパレード
マスクミからも広がるヤマハスポーツ新時代

買ってよかった一番乗り

ニューヤマハスポーツとパツソーラ

10

15 商品魅力を一段と高めた

ニュー『GX4000/GX250』

16 グレードアップで売りやすさを拡大

ニュー『RD50』

ニューカラーで新発売『GT50/GT80』

カブよい走りが増した『ヤマハモトバイクMB3』

17

きらめく個性。Newヤマハスポーツ新登場!!
その反響は大きく、すでに2桁の販売実績をあげたお店も少なくない好調の出足が編集部にも届いています。ところで、警察庁ではこのほど昨年度の大型2輪免許合格者数をまとめましたが、それによると受験者総数は4万331人で、3419人が合格、7.1%の合格率を示しました。内訳は新規受験が8189人、合格者457人(合格率5.6%)、限定解除審査4万142人、合格者2962人(合格率7.4%)で全体として昨年比98.2%増、約2倍ちかい増加で、免許3分割化いらい両3年を経て初めて3000人台を数えました。

お知らせ

前号でご案内いたしました新発売『ホワイトチャビィ』で、シートがカラーとブラックの2タイプがあるご紹介しましたが、これはカラーシート車のみとなりました。よろしくご了承ください。

カラーセクション

18 話のバドック(ちよっと一服、お客さまとの話のタネ)

たけなわの春に、市場開拓も急ピッチ

『パツソル&パツソーラ』でもりあがるソフトバイク商戦

20

22 ●フアイト満々お店訪問
オートショップ 大月さんこんにちほ!

24

話どころ売りどころ
メカニカル・セールストーク/ビジネス・セールストーク

26 YAMAHAA☆トピックス(各地の情報・ご案内)

店内外から呼びかけよう。安全第一
お店にとつてのアクセルとブレーキ——乗り方指導の重要性

29

30 ハイッ、こちらサービスセンター

思い出のYAMAHAA名車シリーズ④ YDS1

31



ソフトバイクの普及につれて、ますます重要視されてくるのが、乗り方指導と安全点検の2大項目。バイクが生活の中に定着し、それと同時にグッド・バイク・フォー・グッド・ライフが広まるにつれ、バイクのよき市民権の確立にも徹底した乗り方指導と安全点検が望まれています。どうぞみなさま方、よろしく願い致します。



さまざま

4月14~15日 岐阜高山「春まつり」

高山の産土神は日枝神社と八幡神社とあり春まつりは日枝神社の例大祭で、山王祭ともいわれている。圧巻は12台の屋台の行列で、提燈に灯を入れた夜の夜景は豪華けんらんたるものとなる。また氏子たちが特姿で行列を組むほか、獅子舞、大太楽、雅楽、鬮鶏楽など神輿の行列もあるなど楽しみは多い。ツーリングがてらに祭見物に訪れる人も少なからず見うけられるが、とにかく10万を超える見物人が集るといふからたいへんなものだ。八幡神社の例大祭は秋に行なわれる。

4月17日 栃木日光「彌生祭」

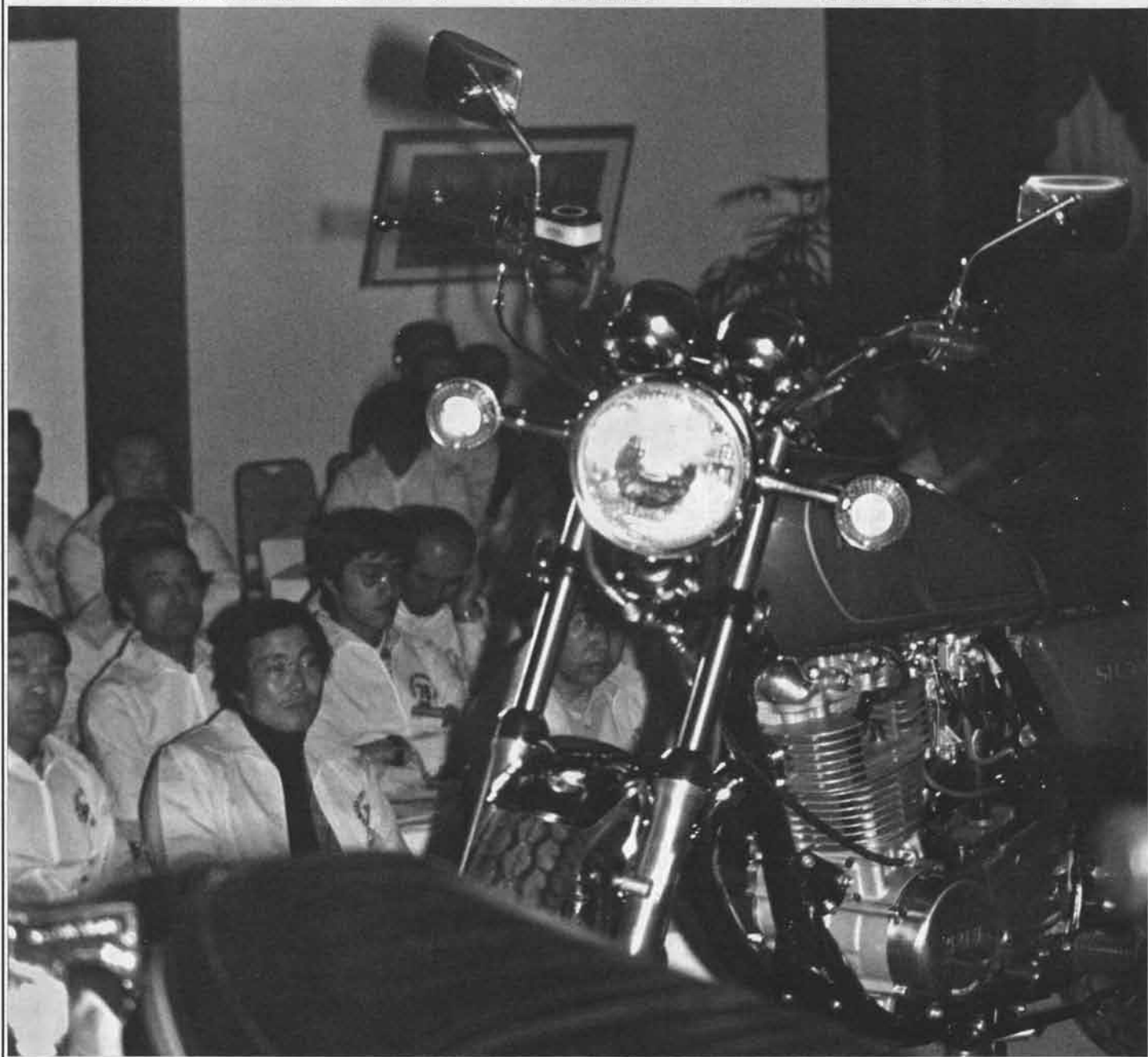
日本を代表する観光名所、日光市の春の訪れは二荒山神社の例大祭「彌生祭」の囃子や笛、大鼓、鉦の音により始まる。その歴史は古く、神護景雲元年(767年)に執行され、御神恩に感謝を捧げ、御神慮を慰めたもの。しかし現代は良品を売って商売繁昌、骨身を惜しまず働きますので豊作を—という祈願が入っている。また屋台がくりだされて、夕方には明神まわりといって神殿を一周する。人出は数万。そして初夏にかけて日光の観光シーズンが始まる。

機は熟した、いま上向きの スポーツバイク需要

YAMAHA SPORTS SPIRIT
'78
YAMAHA

「ヤマハスポーツ新時代」を
高らかに告げる力づよいファ
ンファーレです。大会ではこ
れら新商品の紹介と共に、ス
ポーツ車販売にかけるヤマハ
の決意と市場に密着した販売
政策をご案内、ヤマハコース
での試乗を通じて新商品のす
ぐれた性能を身をもって確か
め、いま上向きのスポーツバイク
需要に大きな自信と、'78商戦
への新たな販売意欲を燃やし
たものでした。

「ヤマハスポーツ新時代」
を迎え、新しく発足した「ヤ
マハスポーツ店」制度の最初
のミーティング「'78ヤマハス
ポーツ店大会」が2月23〜24
日の2日間にわたって、静岡
県掛川市の「つま恋」コンベン
ションホールおよび袋井市の
「ヤマハコース」を会場に
盛大に行なわれました。
シーズン開幕を前にデビュ
ーした数々の新商品、それは





自動2輪市場は回復基調

めざましい、中型2輪の需要

昭和50年10月の2輪免許3分制化（小型限定、中型限定、大型）いらい、自動2輪市場は新規需要が激減、とくに400ccを越えるビッグバイク市場は代替需要中心のむずかしい商売が余儀なくされてきました。

しかし、いっぽうでミニバイク、ファミリーバイクの市場拡大があり、また安全運転普及や大型2輪講習会など地道な普及活動の継続もあって、バイクに対する見方も変わり、自動2輪市場は一昨年を底に、昨年は再び上昇の気運を示しました。軽2輪を含めた昨年の実績は5万7千台、このうち中型以上で4万1千台の需要があり、前年比36パーセント強の伸張率を示したのです。

このデータをうらやめるように、自動2輪免許取得者も、51年の24万7千人から52年は27万人と大きく人口を増やしています。もちろんこの急増は400cc車を上限とした中型限定免許取得者の増加によるもので、大型2輪免許はいぜんとして狭き門であることには変わりません。しかし、全体として自動2輪免許取得者が増加傾向を示していることは明らかなニューズで、より魅力ある商品の提供と、従来に増しての普及活動の促進により、自動2輪市場は400cc車を中心としてさらに需要の伸張が見込まれているのです。

こうした市場の動向を背景として開かれたのが「78ヤマハスポーツ店大会」で、スポーツ車販売にかけるヤマハの決意をテーマに、田中技術担当、小宮営業担当の両取締役のほか平井営業部長、松崎営業課長、高橋商品企画課長、技術部門各担当者が出席、「78ニュー・スポーツバイクの開発意図をはじめ各車のセールスポイント、販売政策などをご案内、ヤマハコースでの試乗を含め、ヤマハスポーツ新時代」の開幕を告げたのです。

400ccを中心に

上下にそろった魅力の商品

78商戦に向けてタイミングもよく市場にデ

ビューした新商品は、すでにご案内しておりますように「XS750スペシャル」、「XS650スペシャル」、「SR500」、「SR400」、「GX400」、「GX250」の6機種。いずれもヤマハ商品の基本思想である高品質・高性能をベースに、多様化するユーザーのニーズに合わせて開発されたものです。共通した特徴としていえることは、数値で表わされる性能以外に、人間の身体の五感を通じて求められる感覚上のサムシングに重点をおいて完成度を高めていることで、楽しさと安全にプラス、持つ喜びを味わえるものとして商品化されています。

代替需要が勝負となるビッグバイク市場では、この時点で「XSスペシャル」の発売はひととき大きな期待が持てるもので、既存のモデル「GX750」、「TX650」、「GX500」、「XT500」の販売にも波及的な好結果をおよぼすものと期待がたかまします。

とくにビッグシングル・スポーツの登場は東京モーターショーで公表いらい大きな反響を得ているもので、ビッグバイク市場に新しいジャンルをつくる息の長い商品となるものです。

いっぽう人気の400ccクラスは、俊足の2サイクル・スポーツ「RD400」に、商品魅力を一段と増した4サイクル・スポーツ「GX400」、シングル・スポーツの「SR400」と、バラエティに富む3機種をそろえてのご商売となりました。加えて経済的な「RD250」、「GX250」、「DT250」、「TY250」と、商品構成は万全です。

「ヤマハスポーツ新時代」定着に 欠かせぬ基本活動

こうした商品ぞろえを得てヤマハはどのような販売政策をとっていくのか、販売店さま対象のもの、直接お客さまを対象にしたものと、さまざまな販売促進活動が、この「78スポーツ店大会」で示されました。

また、これと合わせスポーツ車需要の一層の喚起を図り、お客さまの信頼をかちとるものとして、販売店みなさまにぜひとも実施し

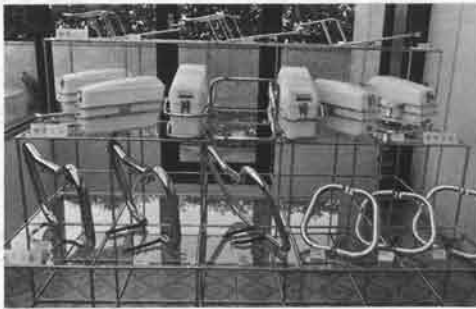
オーバーヘッドプロジェクトを用い、新商品の開発意図を含めて数々のセールスポイントの質疑に答えるヤマハ技術陣。作る人、販売する人が一体となって〈ヤマハスポーツ新時代〉がカブよくスタートした



全国から参集した販売店さまは160余店。多士済々のヤマハスポーツ店のそろうふみで研修もことのほか熱が入る



参考出品として展示されたオプションパーツ



G X 750 に装着された大型カウリングを囲んで話がはずむ。左から2人目は小宮営業担当取締役



売れる用品パーツ類

自動2輪車ユーザーの装着率は実に71.9%の高率で何らかの用品パーツ類を装着（ヤマハ調べ）

- バンパー
- サブキャリヤ
- フォグランプ
- サイドバック
- 風防
- カウリング
- 泥除けマット
- テール、ストップランプ



総需要の拡大

- 家庭生活の中に密着したバイク
- 50ccスポーツレジャーの普及
- 安定需要のビジネスバイク

伸張する自動2輪

- 中型限定免許取得者の急増
- 魅力ある商品で大型2輪の代替促進
- ランニングコストの経済性で売れる250cc

- ソフトバイク
- ファミリーバイク
- ミニバイク
- スポーツバイク
- アンダーボーンバイク
- ビジネスバイク

- 250cc
- 400cc
- 500cc
- 750cc

ていただきたいような8項目の基本活動があげられました。
それは、店頭における商談成約に欠かすことのできない充実した店頭展示。
高度なバイクの知識をもつスポーツ車のお客さまに対応できる商品知識の修得とお客さまに対する安全指導。
お客さまの経験や技術に合わせた正しい上級車移行を促進するための、顧客管理の徹底と積極的な販売活動。
特にスポーツバイク・ユーザーのニーズの高いオプションパーツやヘルメット、ウェア、ブーツなど用品類の積極的な販売促進。
定期点検の完全実施によってお客さまの信

頼を得、サービス収益のアップを図るためのサービス力の向上。
健全なスポーツバイク・ユーザー、正統派ライダーの育成。さらにはこうしたお客さまを固定客化し、オピニオンリーダーとして育成するためのお店のスポーツクラブの設置。
安全を売るお店、また地域社会の交通安全をリードするお店としての安全運転推進活動の促進。
日に日に利用率の高まっているクレジット販売の促進。
以上の8項目です。こうして2日間にわたった「'78ヤマハスポーツ店大会」は盛況裡に終了。互いに躍進を誓いあったのです。



初めて聞く“XSスペシャル”の排気音。特徴的なショートメガホンマフラーからコダマする音が耳をそばだたずにおかない



実感・体感、この確かさ 意欲もりあがる'78商戦の展開

2班に分かれ、それぞれ2台のバスに分乗してヤマハコースに到着したヤマハスポーツ店のみなさまを迎えたのは、『XS 750スペシャル』から『GX 250』まで6機種18台の試乗車です。ヤマハコースは全長5245メートル。1410メートルのストレートに20Rのヘヤビンから450Rまで16種のカーブが組み合わされた

高速8の字型で、1カ所の立体交差を含めすべてノンスキッド舗装された国際公認のコースです。

ここでヤマハスポーツ店さまは、それぞれに愛用のヘルメット、皮ツナギ姿に着替えられ、始動に、加速に、コーナリングに、期待のニューモデル群の完成度を確めたのです。

ヤマハコースをバスが一巡。降りた一行を待つのは'78ニューモデル群



いざコースへ。「GX400」の軽快な乗車フィーリング。ピックアップのよさと、どこまでも伸びる回転が話題のマト。また『XS650スペシャル』、『XS750スペシャル』のユニークなライディングポジションは新しいビッグバイクの世界をつくりだすものと騒いだ。さらにシングルの「SR」には、みなさん様にマニアの立場に逆戻りしたかのように熱っぽい口調でそれぞれに乗車感をたたかわす。「想像以上に乗りやすく、味のある車」というのがその結論。いっせくとびに夏がきたような熱気うずまくヤマハコースの試乗会であった。

試乗の印象をレポートする。この販売店さまの声が高品質・高性能ヤマハを大きく育てる



期待のシングル・ロードスポーツ。エンジン始動のテクニクはいかに。「400はデコンプを使わずとも十分いけるネ」の声も

4月号の専門誌は NEWヤマハスポーツ・オンパレード マスコミからも広がる 「ヤマハスポーツ新時代」



「ヤマハスポーツ新時代」の幕開けを飾って、3月1日、全国一斉に新発売された78ニュー・ヤマハスポーツ群。

これとタイミングを合わせて、3月初旬全国の書店の店頭を飾った二輪専門誌

・4月号も、こぞってこの期待の新商品群を大々的にとりあげています。スポーツバイク・ユーザーのオピニオンリーダー的役割を果たす、これら専門誌を通じてお客さまの間では、早くも「キング&クイーンシート」「ホースバック・ライディングスタイル」といった新語が、熱い口調で交わされていますが、ここに各誌のテストライダーが身をもって感じた試乗感を、テストレポートから抜粋してご紹介しましょう。貴重なセールストークのポイントがもりだくさん。みなさまもぜひ一読ください。

■ヤマハスポーツSR500/400

スリムで軽く、無類にコーナリングが楽しいこのSR500/400は、ひとつのブームを巻き起こすかも知れない。「モト・ライダー誌」

「オートバイ」「モーターサイクリスト」「ヤングマシン」「モト・ライダー」「ミスターバイク」の二輪専門誌、「プレイボーイ」などの男性週刊誌で一斉に発表されたテストレポートは、いずれもまさにヤマハ発動機本社およびヤマハコースで行なわれた発表・試乗会によるものです。

このたび新発売の「XS750/650スベシヤル」「SR500/400」「GX400」それに輸出モデルの「XSイレブン」を加えた6機種が、専門誌テストライダーによって試乗されましたが、昨今のユーザーの動向を反映してか中型最大の400cc級に特に熱心な質疑や試乗がくり返されていました。

というのも、これで中型ヤマハスポーツには2サイクル、4サイクル、そしてシングルツインと揃い、その多彩なラインナップは、文字通りキメ細かくユーザーのニーズに応えるものとなったからです。

中でも昨秋のモーターショーに登場以来、

期待と注目を集めていたビッグシングル・ロードスポーツ「SR500/400」は——
「スリムなライディングポジションによってコーナリングは軽々とあつかえ、マニアックなシングル味の技術の進歩による使い勝手よさが、見事にマッチしたマシンといえよう」(オートバイ誌)

「ライディング・ポジションはじつによい、無理なくぐつと締った感じの下半身はスリムの一語につきる。(中略) 試乗当日、もつとも楽しかったのは、このSR500/400でその軽い身のこなしと、素晴らしいコーナリング性能を利し、他の高性能マシンを追いかけまわすことであった」(モト・ライダー誌)

——と評価も上々。
そして各誌一様にビッグシングル特有の始動の難しさに焦点を当てていますが、CDIデコンプ、キックインジェクター、ウォームエンジンスターター……の始動性向上対策とその成果に高い評価が寄せられています。

■ヤマハスポーツGX400

あらゆる速度でリアル・スポーツ・バイクにふさわしい操縦性とスピードを持つGX400は、ツーリングバイクとしても最も魅力的な400ccマシンの一つとなった。「オートバイ誌」

今回の試乗会では、唯一のモデルチェンジ車であった「GX400」。しかし、「デザイン

は旧型のタンク、シート直線的なラインを基本とした独特なものとは180度変わった



まさに'78ヤマハスポーツ・オンパレードの二輪専門誌

きわめて一般的なスタイルとなっている。それゆえに低いシート高と良いライディングポジションを得て、思う存分コーナーで振りまわしても不満のないものになっている。(オートバイ誌) というように、丸味を帯びたマイルドなスタイリングといい、エンジンのシヤープなビックアップといい、全くのニューモデルという印象を強く与えていたようです。そしてGX250/400の身上でもある

よって一層鮮烈な試乗感をもたらしています。「すばらしいエンジンの吹き上がりは、1万回転まで谷もなく一気上がり、ストレートでも6速で160km/hになってしまふ」(ヤングマシン誌)

「最高速度が170km/hも出るからといって扱い難いビーカーなエンジン特性ではないトップギヤで40km/h以下のスピードで走ることでも可能だし、そこからの加速も力強くスムーズだ」(モーターサイクリスト誌)

そして、各誌一様に、「最も魅力的な400ccマシン」「ユーザーは乗る喜びと持つ喜びを合わせ持てるであろう」といった言葉で結ばれている点も注目される点です。

■ヤマハスポーツXS750スペシャル/XS650スペシャル

従来のビッグマシンのように、日常の足としてはどうも……というのではない。XS650スペシャルは、日常の足がわりにも十分使える、新しいタイプのビッグマシンなのだ。「モーターサイクリスト誌」

マッチングがこぞって述べられています。

「XS750スペシャルのエンジン性格は他の4気筒ナナハンと異なりトルク型である。シヤープさはさほどないが車速はクランク増すがファイリングの特徴だ。この常にライダーの意志に忠実なエンジンは、ホースバックライディングポジションとのマッチングが似合う」(モーターサイクリスト誌)

さて高品質、高性能ヤマハの象徴として、またヤマハスポーツ新時代のシンボルマシンとしてひととき大きな注目を集めた「XS750/650スペシャル」は、そのざん新なスタイリングに加え、独自のアップハンドルと「キング&クイーンシート」がつくり出す「ホースバック・ライディング」の新しい走りに、多くの共感の声が寄せられています。

つまり「キング&クイーンシート」と呼ばれる大きな段差を持ったシートは、低くセッティングされ、身長160cmの私でも両足がベタッと接地する。小柄なライダーには大歓迎のシートだ(ヤングマシン誌)といった試乗感が各誌から読みとれ、このポジションとDOHC・3気筒の750ccエンジン、またバーチカル・ツインの650ccエンジンのみことな

買ってよかった 一番乗り

NEW ヤマハスポーツ パッソーラ &

前ページまでに紹介しましたように、「ヤマハスポーツ新時代」を告げる数々のニューモデルは、パッソーラに続いて業界の関係者多数から並々ならぬ評価を受けています。そこで気になるのは、なんといつてもユーザーの方たちの反応です。ここでは、数あるニューモデルの中でも、とくに話題を呼んだ「XS750/650スペシャル」、「SR400/500」、「GX400」のビッグモデル5機種と、早くも順調なすべり出しを見せている「パッソーラ」のお客さまに、その購入動機や走りの実感をお聞きしました。いずれの方も、発売日を待ちかねていた人ばかり。その一番乗りの感想やいかに？

ゆとりある走りを楽しめる XS750スペシャル

神奈川県鎌倉市●岩田 昌幸氏

35才の岩田さんは、その年令にふさわしくバイク歴も15年という大ベテラン。それも、70年にヤマハから初めての4サイクルビッグバイクとしてXS1・650が新発売されて以来、500cc以上のヤマハのビッグバイクは全て自分のものとして乗りこなし、この「XS750スペシャル」が実に12台目のヤマハビッグバイクになるという大のヤマハファンです。

「とにかく、バイクがなければ身動きがと

れないんです」というほどのバイクマニアの岩田さん。それだけに、どんなに雨が降ろうと寒かろうと、「自分の体とバイクとの心地よいマッチング」を求めてバイクに乗る。逆に言えば、バイクにとつては、あらゆる気象条件において常に性能を試されているようなもので、岩田さんほどコワイお客さんはいないとも言えます。

「XS750スペシャル」を手にしたのは3月1日の発売日で、文字通りの一番乗り。

「この前はGX750だったんですが、シャフトドライブ、トランジスタ点火方式など、GXの特長を受け継いだ上で、それらを少しも損なうことなく、これだけのものにまとめ上げたということは、ボクらの持つて



いる、ススポーツのヤマハというイメージ、期待に十分応えてくれたものと思います」

さらに「まだ乗り始めて間がないのであまり細かい所までは把握していないが」と前置きして具体的な印象を話してくれました。

「エンジンのラバーマウントのため、とくに3千回転を越えたあたりでの乗りこころは素晴らしい。またフロントフォークが伸びたことによりクッション性能が良くなり、その反面で懸念していた、ホイールベアスが伸びたことによるコーナーでのハンドリング

きわめてマイルドな乗り味 XS650スペシャル

東京都江戸川区●黒沢 時雄氏

まだ20才という若さながら、16才でバイクに乗りはじめ、トライアルにも相当の経験を待つ黒沢さん。「ヤマハの650は、一度その乗り心地を覚えたら忘れられなくなっ

「バイクの魅力っていうと、乗ってるな」という充実感だと思うんですが、ボクにはや



マハの650にそれがいち番感じられます」

「XS650スペシャル」との最初の出会いは、昨年の東京モーターショーの時とか。

「あの時の印象は今でも忘れられません。ちょっと大げさな表現をすれば、大きな衝撃を受けたといったものでした。ヤマハのバイクはノーマルなままで十分に美しいという感じを持っていましたが、イメージを一新したこのニューモデルはまさにその代表格といったところです。あの時は輸出用の参考出品ということ、残念に思っていたのですが、それだけにこんなに早く国内発売されて、喜びもひとしおです」

まだ慣らし運転の段階なので、十分に走り込んではいないが、その素晴らしい走りの感覚は十分に味っているとのこと。

「走りついでと、とにかく飛ばさなくてはその感覚が味えないみたいな錯覚が一般に

大ベテランを魅了した力強い鼓動

SR500

東京都目黒区●箕輪 純一氏

かつてのテレビCFに「急にオンタケ（御嶽山）長野県を見たくなった」といって、雨

の中をさっそうとドライブに出かける千葉真一のコマーシャルがありました。箕輪さんと

あるようですが、このバイクに乗るとその必要もなく、乗ってる充実感が味えることがよくわかります。今は都内だけを、3千回転位の慣らし運転中ですが、とてもマイルドな感触です。いわゆる「外国の名車」と呼ばれるものの中にも、これほどのものはあまりないのではないですか」

「具体的に言うと、ホースバックライディング」と呼ばれるゆとりある姿勢がとれるハンドル、タンク、シートなどから生まれる全体的なスタイルの良さ。また、そのゆとりをより可能にしているクラッチ、ギヤ類の軽い取り扱やすさが上げられます。そして、この何ともいえない感じのマフラーは、実用面できわめて心地よいサウンドを聞かせてくれます。これだけ完成度が増した上に、価格がわずか2万円アップしただけというのも、ボクらにとってはありがたいことです」

「SR500」との心にくいばかりのコンビネーション、またそのバイクにかける情熱あふれんばかりの話ぶりには、この気のきいたコマーシャルを思い出させるものがありました。

箕輪さんも、信州から信濃へかけての道が大好きで、購入したばかりの「SR500」でも、慣らし運転を兼ねてさっそう信州路をソロツリングしたほど。

17才前から乗り出して、バイク歴12年になる箕輪さんは、1年半ほどの周期で次々に買い替え、自分のもの以外にもあらゆるバイクを体験してきました。この大ベテランが5年前にTX750に乗ってからは大のヤマハファンに。そしてXT500を手にしてからは「バイクの魅力は単気筒につきる」というと

ころまで、自分なりのバイク感を築き上げたものです。

箕輪さんの場合、時間的問題から林道ツアーはさけて、もっぱらオン・ロードでのXT500の深い乗り味を満喫していました。したがって、この「SR500」の出現はまさに「待ってました」というもの。

「いやあ、実はドカティとかBSAのゴールドスターなんか欲しかったんですが、金銭的にちょっとね。それだけにこれが発売されると聞いた時はうれしかった。実際に乗ってみても、性能面でもデザイン的にも非常に素晴らしいバイクですね」

信州路への慣らし運転で300km近く走った時の試乗感で最も気づいた点を聞いてみました。「やはりロード



タイプに新設計されたフレームやサスペンションの違いによる乗りやすさを感じました。始動性もキックインジケーターと手動式のデコンプのおかげで大変らくです。その他、ロード向けのいくつかの改良点があるけど、それだけでXTでも味わえた低速から中速にかけてのシングル独特の力強い鼓動、心よいひびき、そしてあの路面を蹴るような感触などは少しも変わっていない。いずれにしても、私の乗り方にぴったりフィットしたいバイクです」

今度の日曜日あたり、「SR500」の小気味よい排気音とともに、箕輪さんの姿が信濃路で見られるかも知れません。

北海道の原野でこの音を聞きたい

SR400

東京都文京区●ジャン・ウィリアムズさん

「買ってよかった一番乗り」の企画に際して、販売店さんに電話でいろいろお話をうかがっていた時、東京のモータープロダクト大谷さんから「SR400を買いたい」という女性がいるよ、しかもイギリス人だ」という情報が寄せられました。

最近、女性といえはただちにチャビイ、パツル、パツラーなどの原付バイクと、無意識のうちに結びつけがちだった編集部一同このビッグシングル「SR400」の発売を待っていた女性がいると聞いて、なにかハツとする思いにかられたものです。

ジャン・ウィリアムズさん、30才。イギリスにいた時、当地に赴任していた日本人と結婚し、3年前にご主人とともに来日。当時は日本語は全くダメでしたが、今ではなにに不自由なく話すことができます。ジャンさんはい

ま、NHKの

海外向け短波放

送でコピーライターのアル

バイトをしながら、ハリと灸の

仕事を覚えるべく勉強中です。イ

ギリスでは、中国式のハリ・灸が若

い人の間でなかなかの評判とのこと。

さて、ジャンさんのバイク歴はイギリ

スにいた時からのもので、主に250cc35

0ccクラスに乗っていました。「天気の良い

日に、いなかの道を走るのが大好き、どこに

でも気軽に行けるのがバイクのいいところ。

4輪はクライ」と、このあたりは洋の東西を

問わないようです。

バイクの歴史では大先輩国であるイギリス

の人らしく、ジャンさんのバイクを見る目は

なかなか肥えたものがあります。「去年のモ

ーターショーで「SR

400」をひと目見て

そのシンプルなデザイン

が気に入りました。

デザインはどんな人

ですか」と質問された

ほどのほれこみよう

でした。

こちらが最も懸念し

たのは、女性にとって

の「SR400」の始

動に關してですが、こ

れまでセル付きのバイ

クに乗った時も、ジャ

ンさんは常にキックを

使用していたというこ

とで、ちょうど納車の

時に大谷さんへ取材に

うかがった編集子の前

で、インジケーターを



待ってました、この野性味

東京都北区●高橋 勉氏

GX400

見ながら気軽にキッ

クしたものです。

そして「このシングル独特の

排気音がバイクの魅力のすべて」ということ

で「この夏は広い北海道の原野で、思い切り

した。

この音を楽しみたい」と胸はずませていま

従来の直線を主体としたデザインを一新、

全体に丸味をもたせた柔らかさを強調させた

スタイルとなって再登場した「GX400」。

この丸味をおびたハイツアラを発売直後に

予約、発売と同時に手にした高橋勉さん(右)の

「GX400」評は一〇〇点満点中一〇〇点。

今はもう、忙し仕事の中も時間をみつければ

「GX400」の爽快な走りを楽しんでいます。

「もともと僕の好みは、カフエレーサー風

の直線的なデザインよりも丸味をおびた野性

的なデザインなんです。

でも今までって、そういうバイクは外国製

がほとんどで国産ではあまり見られなかった

でしょう。ただ、ひとつだけ気に入っていた

バイクといえば、ヤマハのTX500ぐらい

だったんです。それにしても、僕は中絶免許

しかもっていないので、乗ることは無理。実

際のところ、免許は取ったが買いあぐねてい

たんです。

そんな時に、橋本輪業さんで見せられたの

が「GX400」の写真。その一瞬「これだ！」

っと思っただけです。スペシャルやSRにも共

通していたことですが、丸味をもったタンク

と、いかにも野性味あふれたデザイン。

このイメージを大型車種にとどめておかない

で400cc、250ccにまでもたせてくれた

ことがとても嬉しかったですね。

それと、カラーが黒というのも魅力のひとつ

つ。まさしく、僕が待ち望んでいたバイクの

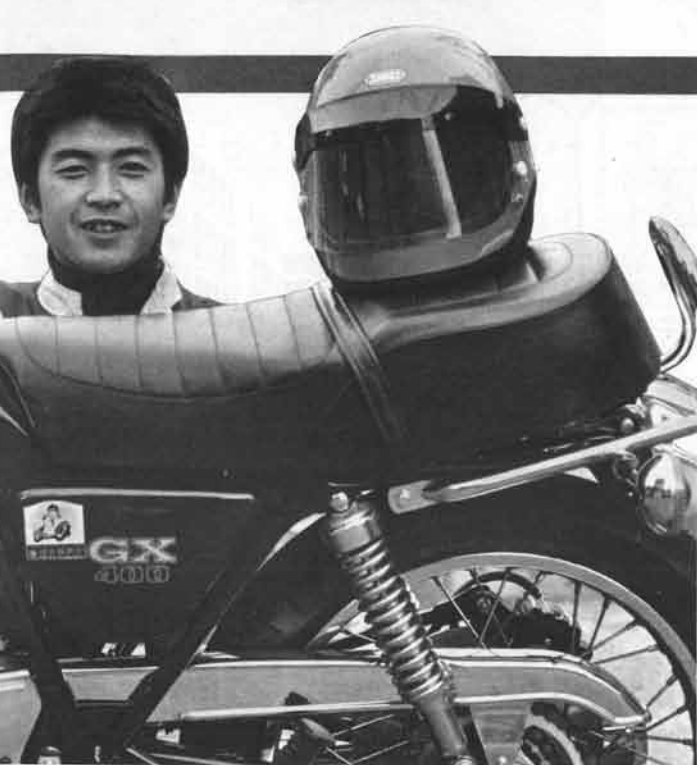
写真がそこにあったんです。そして、その場

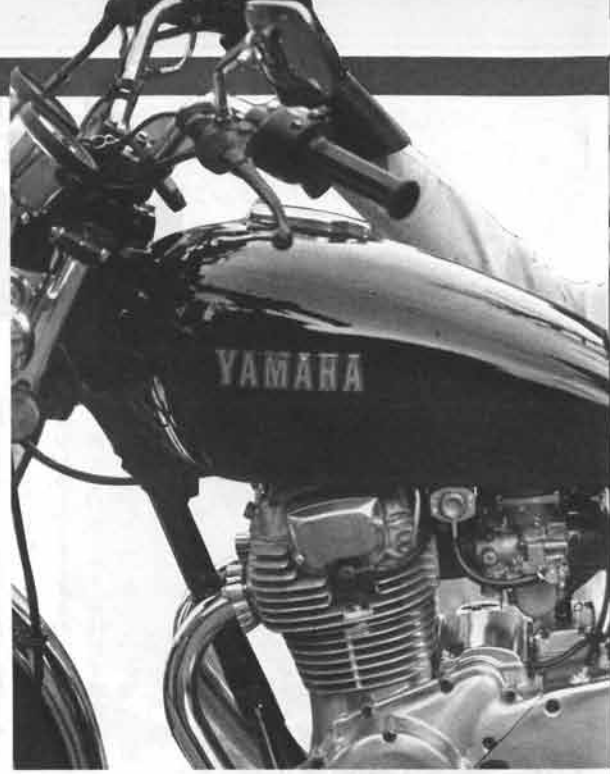
ですぐに予約。待望の実車を手にしたのは、

3月4日でした。

まだ、そんなに走ってみたわけではありま

せんが、本当に欲しかったバイクに乗れるこ





お母さん、今日はどっちのステップスルー？

埼玉県越ヶ谷市●高橋美智子さん、由香さん母娘

暖かな春の陽差しを背にうけて、2タイプそろったソフトバイク、「かるやかパッソル」と「びのびパッソラ」で楽しくお出かけのお二人は、埼玉県越ヶ谷市にお住まいの高橋さん母娘。

お嬢さんの由香里さんが乗る「パッソラ」は、大学受験に合格したお祝いにお母さんの美智子さんからプレゼントされたもので、高橋さんの玄関先に置かれる4台目のヤマハ50ccバイクとなりました。

というのは、美智子さんが大のバイク好きでチャビイ発売と同時にこれに乗りはじめ、昨年パッソルが発売されると、それを「パッソル」に代替。その後、パッソルのやさしい走りだけではもの足りなくなるとなんとGR50も購入。気分によって乗り分けるといったほどの、まさに「バイクママ」なのです。

由香里さんは17才。お母さんの影響もあって16才になっただけバイクに乗ってみたいといった気持はもちろんあったが、大学受験に合格するまでは、とガマンの子であった。

と位、楽しいことはいないというのが今の実感、何がどうっていうことよりも、まず最初に乗ってて感じるものがあるんです。

もちろん、走行フィードバックはマイルドで疲れないし、コーナーリングも非常に軽く素直で、操縦性は文字どおりの意のままといった感じですが。まさに期待どおりのバイクで、待っていただけのことはありました。

目ざす大学に晴れて合格が決まった由香里さんは、さっそく、いままてお母さんがパッソルなどを買った「原サイクルさん」越ヶ谷市の免許教室を受講。こちらの方の試験にもみごと一回で合格しました。

首を長くして待っていた免許証を手にするや、さっそくパッソルでバイクの練習、GR50にも乗って見たが、こちらはちよつと恥かしい感じ。なにしろ花も恥じらうお年頃なのです。

そうこうしているところへ、お母さんから嬉しい話し。折りしも発売されたソフトバイク第二弾「パッソラ」の特長を「原サイクル」さんで教わってきた美



智子さんが「今度の「パッソラ」はあなたにはちよつどいいみたい。パッソルと同じようにやさしく乗れるけど、もう少し力があって、スピードも出るんだって。合格のお祝いに買ってあげるわ」となった次第。合格のお祝いのところが「パッソラ」がお宅に届くと、



由香里さんよりむしろお母さんの方がウキウキ。それもそのはず、由香里さんがいうには「わたくしへのプレゼントというけど、ほんとうはお母さんも乗りたかったのよ」。

春休みなのを幸いに由香里さんは毎日のようにチャビイ乗りを楽しんで、いまでは腕前もメキメキ上達。お母さんと「ステップスルー」同志で出かけることも度々ある。こんな時、ほんとうは二人とも「パッソラ」の方に乗りたいたのだが、そこは由香里さんが先輩でもありスポンサーでもあるお母さんに敬意を表して「今日はどっちのステップスルー？お好きな方へどうぞ」となるのだそう。

でも、これからは由香里さんが「パッソラ」を独占しよう。高橋さんのお宅は越ヶ谷駅から4キロほど離れたところにあるが、4月に大学が始まると、平日には由香里さんが駅までの足として使うことになっているからです。

商品魅力を一段と高めた NEW GX400/GX250

春から初夏へ、本格的なバイクシーズンの訪れと共に、78魅力のニューモデルが矢つぎばやに市場におくられ、いよいよ活気あるご商売が展開されています。今号でご紹介する新商品はニュー「GX400

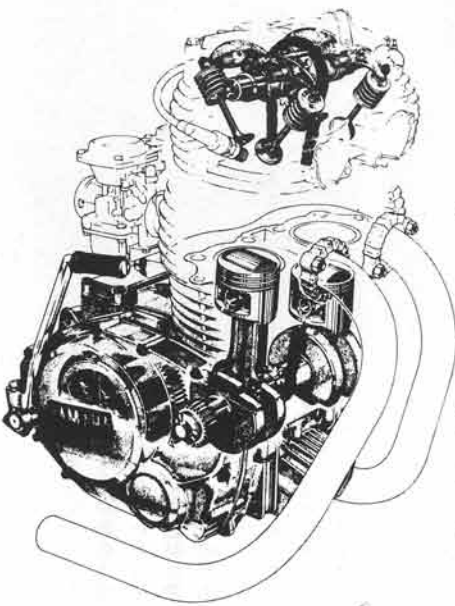


後輪オイルディスクブレーキという充実した装備に加え、その身軽な車重にパワーを生かして、スピーディーで、操縦コントロールのよい、安定した走りを示して好評を得ているものです。

どちらかといえば、それは初めて中型2輪にトライする人に適したのですが、いっぽうで、すでに何車か乗りこなしたベテランライダーに

GX400/GX250の特徴をひとくちで説明するならば、身軽な車体と高性能OHCツインが生み出す独特な乗りやすさ、ということにつきまわります。コンパクトでまとまりのよい車体構成と、あえてバルンサーを持たず瞬発力を高めたエンジンは、6速ミッション、前

れている実績は、GX400/GX250のすぐれた評価を示すものであるといつてよいでしょう。タウンユースとしてののちよい乗りからロングツーリングまで、実に幅広く使われているのがこのクラスの商品ですが、乗りくらべるほどにその真価が大きく示される、それがGX400



180度一体クランクのOHCエンジン。キャブレターはもちろん2連装備で、「GX400」は34mm径、「GX250」は32mm径の三国ソレックスSU型(負圧サーボ式可変ベンチュリ型)を用いている。また「GX400」はこれまで同様に2段チヨークをもつ

「GX250」とニュー「RD50」。いま注目の中型2輪市場の話題作であり、いっぽうは人気絶大の50スポーツです。そして、ミニバイクのベストセラー「GT50/GT80」もニューカラーで新登場です。



0/GX250なのです。

図つたものです。その第一のポイントは、オーソドックスで力づよく、高級感あふれたスタイリングの採用にあります。リヤアームを30mm増して一段と車格を高めた外観は、テアドロップ型の大型燃

料タンク(14ℓ)、ダブルのチン・ダジツツブルのエンジン・シットインスタイルのキング&クイーンシート、グラブバー、オレンジカラー照明の新型メーター、フロントエンブレムなど

今回モデルチェンジされたニュー「GX400/GX250」は、こうした特徴を十分に引継ぎながら、さらに乗りやすさ、扱いやすさを高めて、商品性の向上を

数多いセールスポイント メインスイッチと一体化のロック

180度一体クランク、メンテナンフリーのオートカムチェーンテンション、ブローバイガス還元装置を採用したOHCツインは、基本的には変更ありませんが、「GX400」では冷却フィンを新形状とし、丸味をもたせたものとなりました。

新たに採用したのとしてはレギュレーターをトランジスタ化し、信頼性を高めたほか、ステアリングロックをメインスイッチと一体化し、取扱いやすさを増した点、フラッシュャーランプは転倒など大きなショックをうけるとステータ取付け部が離脱する可倒式としたこと、ハ

ンドルグリップを細身に感触のよい合成ゴム製とし、クラッチ&ブレーキのレバーは黒色樹脂コーティングを施したこと、リヤアーム軸受部にグリスニップルを装着しサービシ性を高めたこと、ホーンを大型化したこと、等々があります。

負圧式燃料コック、50/40ワットの明るい大型ヘッドランプ、2球式のテール兼ストップランプ、DUメタル使用のフロントフォーク、ピストンキャップの半透明リザーバタンクなど、これまでのGX400/GX250で好評を得ている数々の特徴はむろんそのままに引継いで売りやすさを増しています。

GX400



一新したスタイルの『GX400/GX250』。シート高はともに780mmと低くなり、スリムな車体構成と相まってらくに足が地につく。500cc級なみに充実したこの車格で車体重量は168kgの身軽さだ。カラーはブラックゴールドが共通で、赤系は『GX400』がマキシムレッド、『GX250』はモデナレッド仕上げ。



ニューデザインの大形メーター。照明は文字盤を真うらから照射する透過光式で、文字類はくっきりとオレンジ色に輝き、一瞬のうちに判読するのに適した安全性の高いもの。トリップメーターも指針に邪魔されない位置にある。ステアリングロックはメインスイッチと一体化し、左右どちらにもロックできる便利で、使いやすいものとなった。

GX250



ニュー『GX400』主要諸元

●全長2065mm ●全幅845mm ●全高1140mm ●シート高780mm ●軸間距離1365mm ●最低地上高150mm ●乾燥重量168kg ●定地燃費40km/ℓ (60km/h) ●登坂能力28° ●最小回転半径2300mm ●制動停止距離14m (50km/h) ●エンジンOHV 2気筒並列前傾391cc ●内径×行程69×52.4mm ●圧縮比9.2 ●最高出力37PS/8800rpm ●最大トルク3.2kg・m/8000rpm ●始動方式セル/キック ●点火方式バッテリー ●燃料タンク容量14ℓ ●オイルタンク容量2.6ℓ ●潤滑方式強制圧送ウエットサンプ ●バッテリー容量12V12AH (12N12A-4A) ●発電機交流式 (日本電装) ●点火プラグデンソーW20EP・NGKBP6ES・チャンピオンN-8Y ●キャブレター三国ソレックスSU型BS34 (負圧サーボ式可変ベンチュリ型) ●エヤクリーナー乾式ウレタンフォーム+植毛 ●1次減速(比)ギヤ (78/24=3.250) ●2次減速(比)チェーン (39/16=2.437) ●クラッチ湿式多板 ●変速機6段リターン式 (①35/14=2.500②32/18=1.777③29/21=1.380④27/24=1.125⑤25/26=0.961⑥26/30=0.866) ●フレーム高張力鋼管セミダブルクルードル ●キャスト27" ●トレール84mm ●タイヤ前輪3.00S-18後輪3.50S-18 ●ブレーキ前後輪ともオイルディスク ●懸架緩衝装置前輪テレスコピックオレオ後輪スイングアームオレオ ●ヘッドランプ12V50/40W ●テール兼ストップランプ12V8/27W×2 ●フラッシュランプ12V27W ●各種パイロットランプ12V3.4W

ニュー『GX250』主要諸元

●定地燃費45km/ℓ (50km/h) ●登坂能力20° ●排気量248cc ●内径×行程55×52.4mm ●圧縮比9.6 ●最高出力25PS/9500rpm ●最大トルク1.9kg・m/8500rpm ●点火プラグデンソーW22EP・NGKBP7E S ●チャンピオンN-7Y ●キャブレター三国ソレックスBS32 (負圧サーボ式可変ベンチュリ型) ●2次減速比43/15=2.866 ●他はGX400と共通。

グレードアップで売りやすさを拡大

NEW RD50

カラー●ニューホワイト、カーマインレッド



洗練されたスタイリングに軽快な走行性能を盛りこんだ「RD50」が、さらにグレードを高めて新登場です。

白く光るシリンダーヘッドも印象的なニュー「RD50」は、エンジンおよびサスペンション、ブレーキ、タイヤサイズなどを新設計のものとし、新鮮なデザイン感覚で商品性を一段と高めています。

さらに乗りやすく スタイリングも一新

まずエンジンは、トルクインダクション・システムに新しい技術を加え、3枚式リードバルブを採用、キャブレターはドレンコック付の新型としたほか、エヤクリーナーケースを樹脂化するなどポートタイミングを含めて全面的な新設計とし、オートループポンプもさらにオイル消費の少ない高性能型としています。またこれにともないシリンダー、シリンダーヘッドの冷却フィンも大型化、マフラーも新型で、容量をアップ、最高出力は9000毎分回転で6.3馬力を確保、最大トルクは0.1kg-mアップするなど性能向上を果しました。

車体関係では前後のサスペンションを強化し、さらにすぐれた操縦安定性を得るため18吋リムを採用、車輪径を大型化しています。また前輪のオイルディスクブレーキはキャリアを後方支持として回転モーメントの重量を軽減、ブレーキパッドは角型で、面積を大型化、強力な性能をもたせました。

フロントフォークはご覧のようにブーツを取外した新型で、クッションストロークを100mmに増大、またリヤのショックアブソーバーはコイルスプリングを2段式にすると同時に減衰力をアップ、路面への追従性を一段とすぐれたものとしています。

そのほか、特徴的なロングシートはテールアップ式とし、リヤのカウルはラゲージボックスとして使いやすさを増しています。フェンダーは前後ともポリプロピレン製で、リヤは泥ハネの少ない形状とし、ヘッドランプはレンズ径を大型化、テールランプはバッテリー点灯方式とするなど、ニュー「RD50」は性能アップを図ると共に安全性の向上にも細かな配慮を加え、商品性を一段と高めました。



新鮮なデザインと充実した装備で商品性を一段と高めたニュー「RD50」。座り心地のよいロングシートのリヤカウルはラゲージボックスとなっており、ちょっとした小物が格納できる。また、フロントまわりを一新、見る人に軽快な走りをつよくアピールするものとした。カラーはカーマインレッドとニューホワイトの2タイプを用意

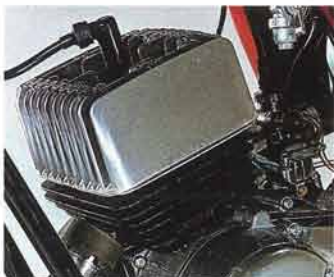
●ニューデザインのメーター。オートループオイルは残量0.3ℓで補給を促す警告ランプ方式を採用

●最高出力6.3馬力は、従来より500回転低い9000毎分回転で発揮し、最大トルクは0.51kg-m/8500rpmにアップ。磨きあげられたシリンダーヘッドの大型冷却フィンがいかにもカブよい



このクラスで本格的なオイルディスクブレーキを採用しているのは「RD50」だけの大きなセールスポイント。ブレーキキャリアはフォーク後方支持とし、ハンドルまわりの回転重量を軽減している。またブレーキパッドは面積の大きい角型で、ブレーキ性能を強化

シートテールカウルのラゲージボックス



ニュー「RD50」主要諸元

●全長1850mm ●全幅740mm ●全高1025mm ●シート760mm ●軸間距離1200mm ●最低地上高190mm ●乾燥重量74kg ●定地燃費80km/(30km/h) ●登坂能力18° ●最小回転半径1900mm ●制動停止距離3.5m(20km/h) ●エンジン2サイクルトルクインダクション単気筒前傾49cc ●内径×行程40×39.7mm ●圧縮比7 ●最高出力6.3P S / 9000rpm ●最大トルク0.51kg-m / 8500rpm ●始動方式プライマリーキック ●点火方式マグネー ●燃料タンク容量8ℓ ●オイルタンク容量1.4ℓ ●潤滑方式分離給油(ヤマハオートループ) ●バッテリー6V 4AH(6N 4A-4D) ●発電機フライホイールマグネー(ヤマハ) ●点火プラグNGKB-7HS ●キャブレター

VM16SH ●エヤクリーナー湿式モルトブレン ●1次減速(比)ギヤ(68/19=3.578) ●2次減速(比)チェーン(47/12=3.916) ●クラッチ湿式多板 ●変速機5段リターン式(①39/12=3.250②34/17=2.000③30/21=1.428④27/24=1.125⑤25/26=0.961) ●フレーム鋼管ダブルクレードル ●キャスト28° ●トレール93mm ●タイヤ寸法前後とも2.50-18 ●ブレーキ前輪オイルディスク後輪機械式ドラム ●懸架線束装置前輪テレスコピックオレオ後輪スイングアームオレオ ●ヘッドランプ6V 25/25W ●テール兼ストップランプ6V 5.3 / 17W ●フラッシャーランプ6V 10W ●各種パイロットランプ6V 3W。

ニューカラーで新発売

GT50/GT80

GT50



オンロードよし、オフロードまたよし。そのオールラウンドプレイヤーぶりが高く評価されている「GT50/GT80」が、ニューカラーとニューグラフィックで新登場です。「GT」マークも印象的なこのニュー「GT50/GT80」は、クリスタルシルバー色とスターブラック色が共通で、50にのみこの2色のほかニードルリーフグリーン色が用意されています。変速は5速リターン式で、主要諸元の変更はとくにありません。



GT80

かぶよい走りが増した MB3

ヤマハモトバイク



ぬかるみ、ジャリ道、凸凹道が楽しくなる前後輪クッション付の「ヤマハモトバイク」に、さらに強力型の「MB3」が加わって新発売です。主な特徴は、12mm長くした152mmのクランクアームで大きなトルクをひきだし、40T/19Tのギヤ比でかぶよい走りを高めたことと、リヤアームエンドを改良、容易に3段変速機を組込めるものとし、オーバロックナット寸法を120mmとしたことです。それともうひとつは特徴的なバナナ型サドルの支柱を270mmに増大、地上高710mmから830mmまで5段階に調節できるものとし、身長135センチぐらいの少年から大人の方まで理想的な乗りやすさを求められるものとしたことです。チェーンケースも安全性を考慮してチェーンホイールを完全にカバーする4点支持式とし、ズボンのソコの巻き込みやオフロードでの草のからみを防止できるものとなりました。ともすると大人の方にも使用されている例が見かけられるモトバイクですが、この「MB3型」の登場で、さらに広い年齢層の顧客を満足させるもの

となったわけです。

なお、ご覧のようにバックミラー、ヘッドランプ、リヤキャリア、ホイールリフレクターなどのオプションパーツが用意されています。また、市販のスピードメーター、リヤディレーラーも簡単に取り付けられます。「MB3」のカラーはコンペティションイエローに加えて精悍なローグロスブラック（つや消しの黒色）が新色として登場しました。





明るいひざしのもと、ポインと登場。のびやかです。快活です。健康的です。これみんな同意語。彼女を目の前にして、あなたならなんと声をかけますか？



● いまラジオの深夜放送でもてのキャラクターが「ナンチャッテおじさん」目下全国指名手配中ということですが、もっぱら都内の国電や私鉄に出没。なにやらぶつぶつ言っているかと思うと、突然、大きな声で「ナンチャッテ」とやって、車内に笑いを巻き起こすという正体不明の中年男。としかわかっていないそう。

ところが、なにか有名になると必ずセモノや類似品が現われるもので、このところ、



● 日本の国技、相撲も外国からの力士志願がふえたり、大相撲が米本土で放映されたりと国際的となって、ついに外人ばかりの部屋が誕生した。

場所は青森県三沢市の米海軍三沢航空基地で、現在、所属力士は11名。

「三沢基地部屋」ができたのは昨年8月。P3C対峙しょう戒機の格納庫内に直径4・54メートルという正規の土俵まで作ってけいこに励むというほどの気の入れようといえます。

青森といえば、往年の鏡里、若乃花、栃ノ海といった横綱をはじめ、現役の貴乃花、若三杉、隆ノ里、魁輝など多くの幕内力士を輩出した相撲王国。当然アマチュア相撲も盛んで、青森ならではのコーチ陣の豊富さとGIの相撲熱が噛み合って、将来が大いに期待される所。

1回のけいこは、シコ10回、すり足での立ち合い10回、コーチの胸をかりての押し10回ぶつかりげいこ1人10番で合計1時間半。これが週2回。あの高見山でさえ、シコを10回踏むと腰がガクガクするというから、このけい



「気にしないおじさん」がにわか登場。「ナンチャッテ」と人気を張り合っているそうです。このおじさんの舞台はバスの中。

まず、カバンを持ってすわり、ころあいをみて、窓からカバンを車外に投げる。乗客があっけにとられていると「気にしない、気にしない」といいながら、ヒモをたぐると、カバンが膝に戻ってくる。

そのほかにも、いつも頭にタオルを乗せ、歌謡曲の前奏部をハミング、途中ムニャムニャで、最後だけははっきりと「チャカチャンチャチャ」と歌う「カラオケおじさん」や「ダンスおじさん」「ウィーン少年合唱団おじさん」などなど「ナゾのおじさん」があちこちに出現している由。

気をつけて探せば、意外に身近にユニークな「おじさん」がいるかもしれませんよ。

この激しさは相当なものようです。

それでも、相撲が好きで転勤を断ったというヤンキーも何人かいるとか。もしかしたら、この中から第2のジェシーが誕生するかもしれません。



● レース中に骨折。ふつうなら薬殺というところを世界で初の大手術で延命策をはかった「悲運の名馬」テンポイント。

その後の健康状態にファンは一喜一憂したのですが、それ以上に関心を示していたのが、なんとレコード業界です。

まず東芝EMIが「あゝ、テンポイントー悲運の名馬」（デュークエーセス）。続いてキングの「泣くなテンポイント」。「涙で蹄を濡すな」というサブタイトルをつけ、ヤングレディに人気の伊勢功一が熱唱。

さらにちよつと遅れて、コロムビアが芥川隆行のナレーションで「テンポイントとトウショウボーイの名勝負」。そしてダークホースといわれるのがポリドールの「テンポイント讃歌」。



● 地震といえばナマズというぐらい、昔から関わりが深いようですが、現在判明しているのは、ナマズが震動に対してひどく敏感であること、ヒゲや側線神経で震動をキャッチしていることなどだけ。

地震はナマズが怒り狂ってひき起こすという昔の俗説に科学的証明が加えられたのは1932年、東北大の畑井教授の実験によってでした。

体長10センチほどのナマズを地面と間接的につながっている水槽に入れ、1日に3回水槽をノックする。ノックしてもナマズが平然としているときは異変がなく、敏感に反応したときは、その後15時間以内に地震計に記録されるような地震が80パーセントという高率で起こるといわれています。

しかし、その後しょせんは下等魚ということと、かなり軽視されてきたものの、このところ、伊豆、三陸と大きな地震が続くと人気再浮上。東京都水産試験場でも、ついにナマズの24時間監視装置で観察を始めるやら、地方の高校の地学部、はてまた素人地震学者まで加わって、いまやナマズ様々。

このあおりで泣いているのが、各地のナマズ料理屋。いっけんグロテスクなナマズも肉は雪白、淡白でコレステロールが少ないということとジワジワと需要が増えてきたところへこの騒ぎ。なんと例年の30%しか入荷がないといわれています。

ちなみにナマズはカバ焼き、鍋、天ぷら、フライがポピュラー。カバ焼きで千円ぐらいから。

いずれも、第2の「あゝ、シンザン」や「さらばハイセイコー」を狙ったものですが、再ブレスで余裕のある「讃歌」を除けば、チャンスに賭ける商魂にとって、スポーツ紙のテンポイント情報はだいに気になったとか。手当ての甲斐なくついに名馬も再びコースに立つことなく目をつむったわけですが、さて、地下でどのレコードが勝利のゴールを獲得したか、気にしていることでしょう。

たけなわの春に、市場開拓も急ピッチ

『パツソル&パツソーラ』で

もりあがるソフトバイク商戦

春一色の日本列島、人の動きもまた目に見えて活発な4月です。バイクシーズンもいよいよたけなわ、この好機に2年目を迎えたソフトバイク商戦は、「パツソル&パツソーラ」の2タイプそろったソフトバイクでもちきり。いまが盛りの販促活動も、定例の免許教室や乗り方教室に、展示会、試乗会、さらには全国規模で開催中の「安全点検キャンペーン」を加えて、まさに最高潮。市場拡大へ積極果敢な挑戦どきの4月です。

展示即売会、試乗会で いまこそ需要期への 一大布石を!

2月15日の「パツソーラ」新発売でスタートを切った「2タイプそろったソフトバイク」商戦は、4月、5月へとよいよ大きなヤマ場を迎えているのです。いうまでもなく、デパート、スーパー、団地や職域から、さまざまなお祭りや催し物まで、人の集まる所へ積極的に打って出るご商売の展開に、一年中でもないまこそ絶好の時期はないからです。

お客さまの関心も高いこの好機に、潜在需要の集まる場所で、展示即売会、試乗会によ

って「パツソル&パツソーラ」のやさしさのアピール、免許教室の受講生募集活動、お店の店名のPR……を大々的に展開し、4月以降の需要期の実販に確実に結びつけたいものです。

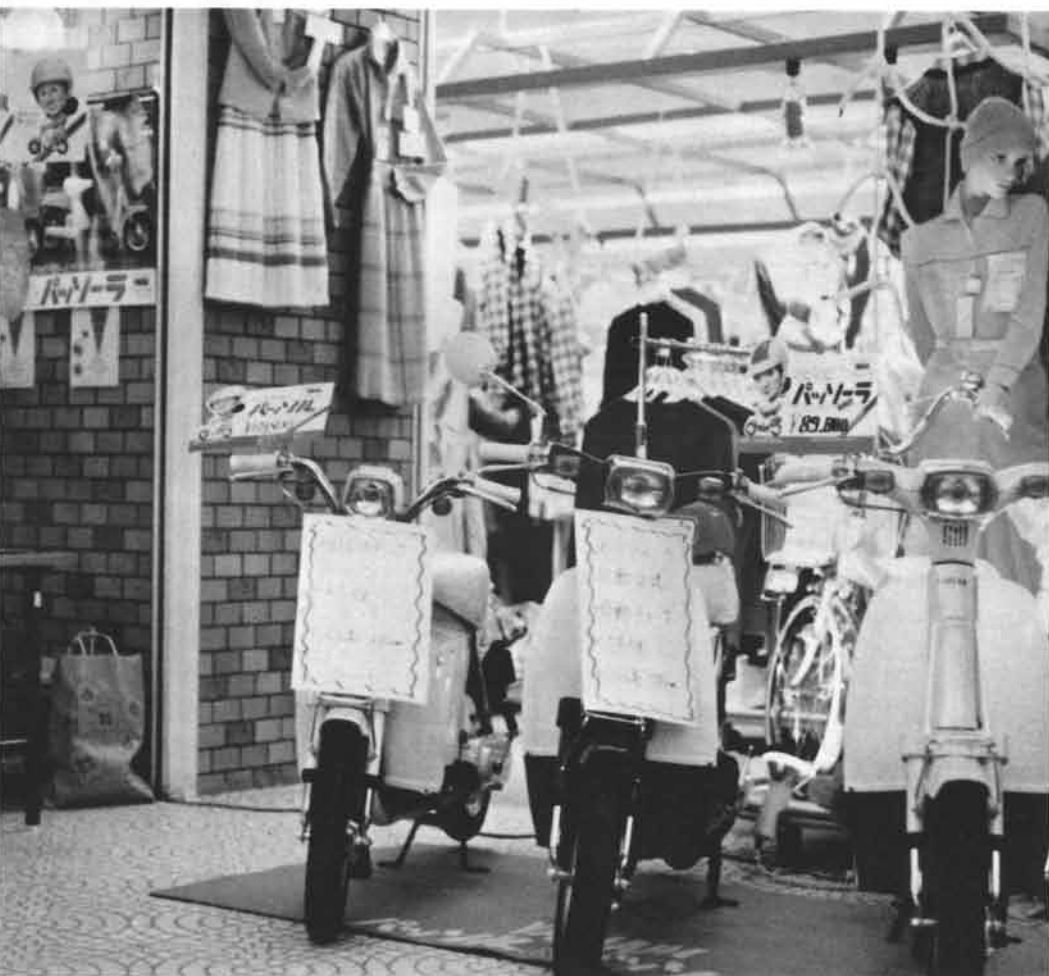


すでに全国各地で開催されている展示試乗会では、このスケジュールを十二分に考慮した展開が行われていますが、3月10日から12日まで、岡山県倉敷市の天満屋デパート倉敷店で開催された「スポーツショップ・ミヤケ(三宅勝年社長)さんの展示即売会では、一週間後の免許教室募集として19・20日の免許

教室開催、さらに間に免許試験日をはさんで、教室から一週間後に乗り方教室、といった致密な組み合わせが、この展示即売会の成果を何倍にも高めていました。

また、このスポーツショップ・ミヤケさんでは、デパートでの展示即売会とあわせて、「春一番のびのびセール」(3月5日〜12日)、「78ヤマハ春のスポーツ&ファミリー展示即売会」を、お店の店頭で開催。打って出るご商売とともに、お店にお客さまを呼び込むご商売が同時進行の形で続けられました。

このように、展示試乗会も従来の会場に加えて、商圈をもう一度みなおし、エアポケットの地域へのアプローチなども、ぜひ考えなければならぬ、この春の商戦。三宅勝年社長は「地道な販売活動が、どこまで完全に実





○お店定例の安全点検サービスをキャンペーンに合わせて重点的に開催する販売店さん。展示会、試乗会、フェスタにもこの春はほとんど「安全点検サービス」が組込まれ、お店の信頼度アップと代替促進、部品用品の収益アップをはかっている。(横浜市鶴見区のオートセンターイリヤさんで)

○合同開催の販売促進活動の打合わせ、ミーティングに熱っぽい販売店さん同士の会合も各地でみられる。乗り方教室開催のミーティングが夜遅くまでつづく神奈川県大和地区のフレンド店さん

展示会、試乗会もいまがたけなわ。岡山地区では昨年パッソル・デモンストレーションでタイアップしたデパート、スーパーで今年も2月19日「パッソル&パッソラ」の発表展示会を開催。昨年収集したパッソルアンケート1万名へのDMもあって人気も上々。10カ所の会場で、1日4千通近隣のアンケートを回収した。
 ㊤天満屋ハビータウン岡南店、㊦同原尾島店で。



施できるか? これをお客さまからも問われている78年ではないでしょうか」と、4月以降の販促活動に意欲満々です。

信頼されるお店づくり 成果も高い 『安全点検キャンペーン』

この春の展示試乗会は、「パッソル&パッソラ」に加えて、78ニューヤマハスポーツをもり込み、より大々的な開催となっているケースも目立っていますが、もうひとつ折りから開催中の「安全点検キャンペーン」を前面に打出し、代替の促進、パーツや用品の売上げを高めながら、正しいバイクの使い方の指導、アフターサービスの充実ぶりを示して信頼されるお店づくりへの成果を高めているお店が各地に増えているのも特長です。



岡山市の榎戸屋モータース(戸田康正社長)さんも、3月18、19の両日、テンマヤ・ハビータウンの開店一周年記念に合わせて、

同所でお店独自の「ヤマハ春のバイクフェア」を開き好評を集めました。こうした展示試乗会を通じてお客さまが増えることは、そのまま商圏が広がっていくことです。当然、そこではお客さまのアフターサービスに対する不安も生じてくるでしょう。お客さまにそんな心配を与えないためにも、「安全点検サービス」の打出しは欠かせません(戸田社長)とバイクや自転車でお見えのお客さまへの点検サービスに力点がかけられていました。

もちろん、安全点検サービスは、乗り方教室や安全運転指導とあわせて、信頼されるお店づくりの一環として、多くの販売店さまが日頃から実施されているものですが、この時期のこうした地道な活動もまた、先の展示試乗会などとともに、春から夏への需要期に大きなのりをもたります。

春の商戦もいよいよ佳境、お店でも積極的な展開を、どうぞ。

フアイト満々お店訪問

オートショップ大月さんこんにちは

茨城県西茨城郡
友部町1470の2502
☎02069776224

総合バイクショップをめざして 若いエネルギーで全力投球

大都市を中心に急テンポで進行してきた通勤圏拡大の現象、いわば「ドーナツ化現象」は、ここ数年、地方都市とその周辺の市町村にまで及んでいます。

こうした中で、2タイプそろったソフトバイク「パツソル&パツソラ」や「チャピイ」など、いわゆるファミリールバイクのニーズは人々の暮らしを豊かにするものとしてますます高まっています。

西約15キロに茨城県最大の都市、水戸市を、そして南約35キロには県下第2の都市土浦市を控える西茨城郡友部町もまた、従来の農業、商業を主体とした町から、これら都市に勤める人々の住宅地として急速な変貌を上げています。

こうした友部町に、若さいっぱいの大月一彦さん、喜代美さんご夫妻が、ファミリールバイクの輪をさらに広めて地域社会に貢献していること、1年半ほど前「オートショップ大月」を開店させました。

機は熟した、若い努力が報われる時

現在、ここ友部町には約6千世帯があり、約2万5千人の人々が住んでいます。町のいたるところでバイクに乗る女性の姿が見かけられます。

ここ数年の間に町の中心地を埋めつくした新興住宅は、そこから3キロ4キロと離れたところまで伸び、さらに遠方へと発展していますが、「オートショップ大月」さんのお客の7割が女性客ということからも、ここはまさにファミ

リールバイク市場といえます。

開業までの5年間、ヤマハ茨城(株)、現在のヤマハ北関東(株)でサービスマンとして働いてこられた大月さんは「前々からバイク販売店開業を志ざし、その機が熟すのを待っていた」といいます。しかし、この初期の段階では、現在のようないろんなファミリールバイク時代が到来するということを予想することはむずかしく、大月さんが夢みていた自分の店とはバイクが好



ソフトバイク第2弾「パーソーラ」の人気は上々。
お店には今日も新しいお客さまが



以前は大きな会社で経理の仕事されていた奥さまの喜代美さんは店のきりもりを中心に活躍。持ち前の明るさは、女性客のみならず若い男性客にも評判

きな若者やマニアで賑わうスポーツショップの性格のものでした。「もし今のようなファミリアバイク時代」を迎えていなければ、開業はまだ実現していなかったかもしれないと語ります。開業に自信を持ち、決断を下したいきさつを次のように語ります。「いくら技術力に自信があり、バイク販売に対する情熱があったとしても、生計が成り立つ見とらしをもてる市場を見出すことは、色々な面でむずかしい状況がありました。

しかし「チャビイ」や「ポビイ」といった新しいタイプのバイク、つまりファミリアバイクが社会の必要性から生まれ、普及するようになり、それ以上にやさしいバイク、誰もが乗れるバイクが求められるようになったことは、バイクが全ての人のものとなった、という事です。これはバイク販売店にとってもまさに画期的なことだったと思います。それは、その経営が台数をさばくことよって成り立つようになり、また、店の取り組み方次第でそれをいくらでも伸ばせる、といったものになったからです。わたくしのような若いものが開業に踏みきれたのも、バイク販売にこうした変化があったためです。

未知の土地にいま根をおろして

開業当初から順調なすべり出しを見た「オートショップ大月」さんですが、ソフトバイク登場によって、お店とこの町の人々とのつき合いは増々広まっています。「ソフトバイクは人々、とくに女性の生活圏を広めました。わたくしとそうした人々のおつき合いいも、これによってぐんぐん広がっています。ここ友部町はわたくしたちにとって未知の土地でしたが、そこで全く新しい人々とおつき合いを持つことにバイク販売のひとりの喜びを感じますね」と語る大月さん。

その大月さんが人々とのふれあ

将来の夢「総合バイクショップ」へファミリアバイクで底辺拡大

大月さんは、今でももちろん、ファミリアバイクのお客さんだけ

の輪をつくるキツカケとなるものとして最も重要視しているものは、やはり、免許教室の開催です。「一人でも多くの人々に免許取得のお手伝いをするにはわたくしたちの使命ですので、これにはとくに力を入れています。月一度の割で実施していますが、毎回、生活にバイクを必要とする人々が多く集まってくれます。ソフトバイクを仲立ちとしてお客さまとお客さまがふれ合い、また、自分とお客さまたちが知り合っています。そしてそれが相乗して人々の輪は増々大きく広がっているんです」



新興住宅と昔からの大きな農家が一体となった友部町。大月さんは納車に、点検に忙しい毎日

でなく、自分と同じようにバイクを真に愛好する人たちが健全なレ

ジャー、スポーツを楽しむため、それを買うようにするような総合バイクショップ」にしていきたいといった夢もっています。そしてこれを早く実現するためにも、いま、若いエネルギーを全て投入して頑張っておくことが必要だ、といった信念をもって毎日の仕事に取り組んでいます。

「いま一人でも多くのファミリアバイクのユーザーにバイクをお届けし、バイクユーザーの底辺を拡大していくことがたいせつだと思います。その底辺の広まりは再び「パツソル」から「パツソラ」へといったようにに上級車種のユーザーとなつて長いおつき合いを続けることができるからです。

そして、こうしたファミリアバイク市場を一日も早く確立することが、自分が理想としている店を実現することにつながると思つて張り切っているわけです」



信頼を集めるお店、それはお店のあなたが、お客さまの疑問のひとつひとつに明確に答え、的確なアドバイスをしてあげられることでしょう。店先でのちょっとした会話や新商品の説明など、日頃のご商売の中で発揮されるセールストークの数々。この積み重ねがお店の信頼度を増し、ご商売の発展をのびします。

メカニカル・セールストーク (エンジン篇)

今号はエンジンの働きを守る潤滑について取上げました。役立つセールスポイントを学びとってください。

4 ウェットサンプル / ドライサンプル

エンジンは4サイクルであれ、2サイクルであれ、回転、摺動部分が多く、金属同士あるいは金属と非金属などの接触で、摩擦熱を生じ、摩擦熱の発生によって早期摩擦を起し、異音を生じます。ついには焼付くなど数々の不具合を生じます。この不具合を防止するのが潤滑の働きで、これはエンジンに限らず車輪のシャフトやチェーンの回転などにおいても潤滑の働きは重要です。しかし、エンジンは動力源であり、しかも1分間に数千回転、あるいは1万回転をオーバーする高速で回るものもあり、この点で不具合のないようとりわけ潤滑の働きが重要視されてくるというわけなのです。

エンジンを持っていくのが特徴です。もちろんエンジンの回転によってポンプの給油量も増すようになっており、オイルは繰返し使われることから、定期的に全量を交換することが必要です。

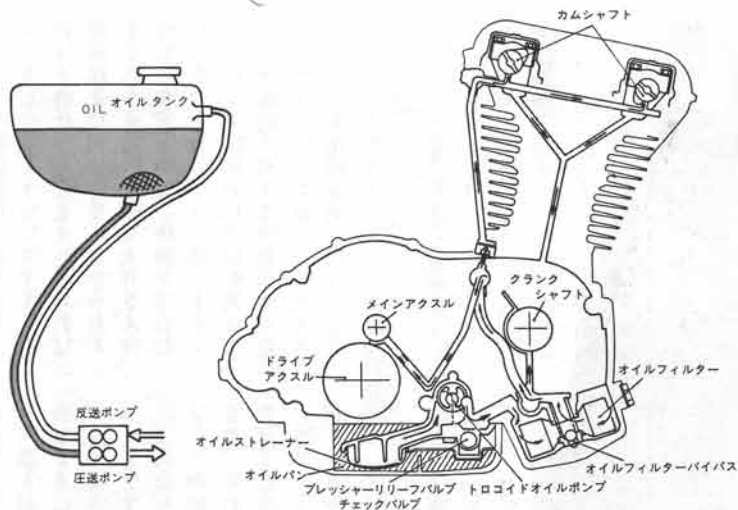
一般的に潤滑というと、滑りをよくするということだけにとらわれやすいが、オイルには①減摩作用のほか、②冷却作用、③熱をうばっている、④クッション作用、⑤軸受など局部的にかかる力を円周上に分散平均させている、⑥気密作用、⑦ピストン、ピストンリングの気密作用をオイルがさらに助けている、⑧腐食防止作用、⑨焼燃時に発生する腐食性ガス、酸、水分などからの腐食の防止、⑩洗浄作用、⑪燃焼生成物を洗い流す……などいろいろな働きを保持している。指定オイルはこうした諸特性をいろいろ条件のもとにテストして決められるものである。したがって指定オイル、同じオイルを使うことが大切である。

エンジンオイルは長期間の使用によって次第にその性能を失っていく。それは長時間高温にさらされ、また空気中の酸素にふれて酸化されたりするほかに、吸

入される燃料混合ガスのガソリン分が溶けこんでうすめられたり、添加剤が消耗してきたり、あるいは摩耗した金属粉や吸入された塵埃が混入されて、オイル本来の働きが終了されてくるからだ。したがって定期的に全量を交換する必要があるわけだ。実際に、長期間使用されたエンジンオイルを抜きとって観察してみると、すす状カーボン分、塵埃、土砂、金属摩耗粉、燃料、燃焼生成物、銀化合物および凝縮水など多くの不純物が混入しており、定期交換の重要性が示される。

ウェットサンプル式とドライサンプル式、どちらがよいかは一概に決められるものではない。それぞれの特徴をその車に合わせて採用されるものだからだ。ウェットサンプル式の良い点はオイルポンプも一つで済み構造が簡単、暖気運転の時間も少ない……などがあり、ドライサンプル式では冷却性が高い、エンジン高が低くできる……などがある。

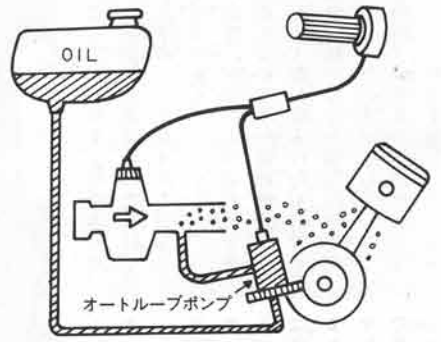
ヤマハの4サイクル・エンジン車は「SR400」「SR500」「XT500」「TX750」がドライサンプル式、他はすべてウェットサンプル式である。



20 オートループ(分離給油)

4サイクル・エンジンの潤滑としてはウェットサンプル式とドライサンプル式があります。サンプルとはオイルパンと同じくオイル溜りのことで、通常はエンジンの真下にあり、このサンプルをオイルタンクとしているのがウェットサンプル式、サンプルとは別にオイルタンクを持つているのがドライサンプル式です。

いずれもエンジン各部への給油はポンプを使って圧送しますが、ドライサンプル式ではオイルサンプル(というよりもクランクケース)に溜るオイルをタンクに引戻すもう一つのボ



これはいうまでもなくヤマハ2サイクル・エンジンの潤滑方式のこと。今でもモトクロツターの2サイクル・エンジンでは混合潤滑あるいは燃料混合式といって、燃料のガソリンの中にエンジン潤滑のオイルを混ぜて潤滑をすすめています。オートループ開発以前の2サイクル・エンジンはすべてがこの方式で、エンジン潤滑のための潤滑装置は装備していませんでした。

2サイクル・エンジンでは、エンジンの回転・摺動の主要部分を燃料ガスが通過するからで、エンジンに最大の負荷がかかっても十分なオイル量をあらかじめ燃料に混合しておけば、エンジン内で燃料ガスが流動する際に粒子の大きいオイル分はバラバラに散ってエンジン各部に付着し潤滑給油の役目を果たすといません。

いう簡単明瞭な仕組みです。しかし、この方式は燃料補給の際に適正な混合比をつくりだす手間がかかるのと、通常の使用状態ではオイル供給が過多となり、余分なオイルが燃料と共に燃え、カーボン堆積や白煙の発生など問題もあり、また性能向上面でもおもしろくないということがあります。オートループの登場となったのです。

オートループは4サイクル・エンジンと同様に燃料のガソリンと潤滑のオイルを別々にもち、ポンプによってオイルを供給するものです。またこのポンプはエンジン回転とスロットル開度の両面からコントロールされ、エンジンが必要にして十分な最適なオイル量を供給するシステムとなっています。

燃料のガソリンと潤滑オイルを別々に持つ

ことから分離給油の名がありますが、燃料混合式と同様に、最終的にはエンジンに吸入される燃料ガスによってオイルが運ばれ、エンジン各部の潤滑を果します。

このオートループの特徴は、燃料、オイルの補給にわずらわしさがなく、登坂時や降坂時など、スロットル開度とエンジン回転が見合わぬ状態でも常に最適なオイル供給量が確保され、オイル供給過多の弊害が除かれること、さらにオイルは新鮮で粒子も大きく、すぐれた潤滑効果が果せらるるもので、耐久性にも大きな効果をもたらすものです。

■オートループは昭和39年4月にヤマハが真先に開発した分離給油方式で、それ以降の新型2サイクル・エンジン車に採用されている。

ビジネス・セールス・ストローク

さて、こちらで紹介するのはビジネス・ストローク。バイクは欲しいが「予算がない」、「乗れない」、「維持が大変」……等々と語るお客さまの数々の疑問に応えた効果的なセールス・ストロークの実例集です。

「夏のボーナス一括払いコース」があります

春を迎えてバイク・シーズンもいよいよ本格的な幕開けを告げていますが、街でも目を追ってバイクの走る姿がきわだって増えてきています。

当然、この時期はお店にとっても売り上げを伸ばす絶好のチャンス。また、ここでこの商売の成否が、78年商戦の行方を方向づける上で大きな意味をもっているのです。



とくに今春は、人気のパツソルに加えてソフトバイク第2弾として新登場したパツソラをはじめ、スポーツバイク新時代を築くスポーツ車種群などがズラリと勢揃い。それだけに、この機をのがさず、従来の商圏をさらに広げる大幅な販売促進を約束した、より確かなご商売の展開がのぞまれているのです。それこそ、購入資金面で躊躇しているお客さまをも含めた積極的な働きかけが――

そこで、この春の商戦でとくに力を入れたのがクレジット販売です。なかでも、今年2月から実施中の「夏のボーナス一括払いコース」のおすすすめは、夏のボーナスをあてにした有力見込客の心を捕えること必定。通常のクレジット・コースとともに、ご商売に有効にご利用してください。

■ヤマハらくらくクレジット・夏のボーナス一括払いコースの取扱期間は、78年5月31日まで。顧客手数料は所要資金の4%で、お支払いは78年6・7・8月の各27日のいずれか都合のよい日となっております。

もう一人のあなたを演出できます。

服装を選ばないし、若さがいっぱい。

これだけ街中で女性のバイクユーザーを見かけることができて、まだまだ女性のなかにはバイクが自分たちの乗り物ではないとお考えの方は多いのです。

しかし、実際にはこの方たちのほとんどはバイクの効用性について深い認識をもち、そのお考えの半面では乗ってみたいという気持ちを持っている人ばかり。こうした人たちにとってのネックといえは、単に服装の問題であるとか見た目の印象であるとか、ご主人に対する遠慮などに過ぎません。

そこで、まずこれらの人々への攻略法としてあげられるのが、もはやバイクは男だけのものではないということ。スカートでも乗れるパツソルやパツソラがソフトバイクの本流であるように、いまやバイクは女性の生活の中に深く根づいていることを認識させることにあります。

もちろん、バイクのもつ効用性や手軽さ、維持費の安さも説得材料のひとつですが、その他にも「ステップスルーは服装を選びませぬ」とか「若さの原動力は行動力。バイクに乗



れば若がりります」といったひと言が、購入意欲をかき立てる上で大きな効果を持っているのです。

■パツソルはどうして潜在需要層をユーザー化できたか?という調査の中で、安い価格や取扱いの易しさとともに多かつた意見が、そのファッション性や服装を選ばない設計などの優しいデザイン。ステップスルーの女性人気は、すでに昨年のパツソル販売で実証されている。

（具体例）
 ●パツソラの場合（¥89,800）
 頭金15,800円の場合
 所要資金は74,000円なので、ボーナス月に83,200円の支払いとなる。

ナス月に76,960円の支払いとなる。
 頭金9,800円の場合
 所要資金は80,000円なので、ボーナス月に83,200円の支払いとなる。

ヤマハトピックス

さわやかアキさん
パツソーラでご機嫌!!



私にとってパツソーラは幸運の女神——と笑顔で応えてくれたのは、パツソーラのコーナーシャルでおなじみの水沢アキさん。
この日は、パツソーラのPRで活躍したお礼にとヤマハ発動機株式会社よりパツソーラ一台が贈られたのですが、取材に駆けつけた雑誌記者を前に「パツソーラのPRをして以来、仕事も順調。NHKの連想ゲームはキャプテンに昇格するし、レギュラ

ーは4本に増えるなど大忙し」とゴキゲンだったもの。
ちなみに、パツソーラの使い道は?という質問に対しては、「まず手始めは、近くの商店街での買物とNHKへの行き帰り。とくに、NHKへは今までクルマで通い渋滞にまき込まれてばかりだったので、楽しみ。それこそクルマを尻目にパツソーラでスイスイと走っていきたい」とのことでした。

底辺拡大はこれだ!!

初心者を対象としたモトクロス教室



スポーツバイク新時代を迎え、各地では昨年にもましてモーターサイクル活動の展開が積極的に続けられています。ここに紹介する兵庫県神戸市のカワモトオートショップ(川元光一社長)さんもおひとり。
カワモトオートショップ内に事務局を置く神戸スーパースポーツレーシングと、同じくモトクロス活動を続ける西の宮の鳴尾オフロードクラブでは、今年2月より定期的に初心者を対象としたモトクロス教室を開催。元エキスパート・ライダーの川元光一社長をはじめ、同クラブ員の協力により、模擬レースなどを通じたモーターサイクルの楽しさの普及や指導を行なっているもので、ヤングを中心とした潜在需要層の掘り出しなど底辺の拡大にも大きな成果を上げているのです。
(写真は、去る2月5日に開かれた明石・伊川谷モトクロスコース場での教室より)

個人資格でイーグルリバー チャンピオンシップに2位入賞

ヤマハ・伊藤盛男社員

スノーモビル

スノーモビルのレースとしてはその歴史、規模、人気の上から世界でも有数のものとして知られているアメリカの「イーグルリバー・ワールドチャンピオンシップ・スノーモビルダービー」に、個人資格で出場したヤマハ本社技術課の伊藤盛男選手が、なみいるワークスチームを相手に堂々2位に入賞するという快挙をなしとげました。
今年で15回目を数えるこのレースには、ヤマハチームとして過去3回の優勝を経験していますが、1/2マイル、厚さ30センチのアイスバーンでつくられたオーバルコースに、平均時速120km、最高時速150kmを超えて覇を競うレース内容は日本のスノーランブルの比ではありません。伊藤選手は「この経験を



お便り、お電話をどうぞ!

本誌を読まれてのご感想、ご要望、あるいはこれとは思う情報をお知らせください。「ヤマハニュース」はあらゆるチャンスをとらえてみなさまのお役に立つよう心がけております。みなさまのご協力をお願い致します。

〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社 営業部PR課
☎05383-2-1111 内線355

速報

デイトナ200優勝、ヤマハ堂々の7連覇達成!!

3月12日、アメリカ・フロリダ州のデイトナスピードウェイで行なわれた第37回「デイトナ200マイルレース」で、YZR750に乗るK・ロバーツが念願の初優勝を果し、ヤマハはこの大レースに輝く7連覇を記録した。2位J・セコット、日本から参加の浅見貞男(TZ750)も6位入賞を果たした。



本欄でも新しいヤマハヘルメットを紹介しておりますが、バイクにはヘルメットが付きもの。50ccバイクを利用してのお客さまの中にはまだヘルメットをお持ちでない方も多く見かけられるようですが、事故に巻き込まれてからでは遅すぎます。折りからバイクシーズン、また4月6日からは「全国春の交通安全運動」が10日間にわたって実施されます。この機会に店頭からもヘルメットの着用をおすすめください。(写真は三重・尾鷲で見かけたヘルメット着用の横断幕)

4月6日〜15日
にかけて実施
ヘルメット着用を
推進しよう

春の交通安全運動

DJERVA

“ジェルバ”——いつか俺の前を走る男へ。

思想を言葉にすることはたやすいが、思想をカタチにすることは難しい。
ジェルバ。オン・ザ・ロードの風たちに贈る。
言葉はいらない、カタチがすべてを物語るだろう。
究極なジェルバ(ライン)、視界を広くとり安全性を確保

ジェルバ FT-300



FT-300 JIS2種規格標準現金価格 ¥13,800

	白	白・黒	オレンジ・黒	黄・黒
	No.	No.	No.	No.
S	90890-51247	90890-51251	90890-51255	90890-51259
M	90890-51248	90890-51252	90890-51256	90890-51260
L	90890-51249	90890-51253	90890-51257	90890-51261
X L	90890-51250	90890-51254	90890-51258	90890-51262



...風よ。

新商品 ヤマハヘルメットご紹介

バイクファンのニーズに応えた新しいヤマハヘルメットが新発売です。その名も「ジェルバ」(FT-300)。JIS2種規格品で、●ウインド視野を広くとったファットライン ●頭部全体にやわらかくフィットするニュータイプの内装加工 ●定評のある安全設計と軽量化 ●

視認性のよい2トーンカラーリングと流麗なジェルバライン等の特徴をもちます。
カラーはイエロー&ブラック、オレンジ&ブラック、ホワイト&ブラック、ホワイトの4色で、サイズはS、M、L、XLの4種 標準現金価格1万3800円。

今後のスノーモビルの開発に生かしていきたい」と、また新たな闘志をわかせていました。



ヤマハトピックス

東大にもあったバイククラブ

78 ヤマハスポー
ツバイクいちばん
乗りは、本文でい
ろいろなお客さま
をご紹介していま
すが、愛車「GX
750」と並んで
バチリのこの方は
その名も「トーキ
ョーユニバーシテ
ィ・モーターサイ
クルファン」で「G
X750」のいち
ばん乗りとなった
東大・船舶工学科
3年の吉村善範さ
んです。



東大生といいま
すと、バイクには
無縁の人が多くと
思われているよう
ですが、どうして
どうして、やっぱ
り素晴らしいバイ
クライフを楽しん
でいる仲間が少なくないのです。

つか20余名。教授の中にはモーター
サイクルにウンチクをかたむける人
もいて、マスコミからもいろいろと
取材の対象となっている、というこ
とでした。

曲乗り決定版

思わず息をのむオートバイの綱渡
り……………

スタントショーの乗りものとして
人とマシン一体演技のナマのスリル
が十二分に味わえるという点で、オー

レユニオン

トバイにまさるものはありません。
写真はアフリカ大陸のはるか東方
インド洋に横たわるレユニオン島(仏
領、面積2500平方キロ)のヤマ
ハインポーターであるS・エレクト

5月のモータースポーツ

◆モトクロス(MFJ)

7日	東北MX第1戦福島大会	高森SL	MFJ福島県スポーツ委
13~14日	関東MX第4戦長野大会 全日本MX第4戦鈴鹿大会 (ノービス地方大会併催)	信更 鈴鹿	関東信越MC長野支部 鈴鹿サーキット
14日	青森県MX第1戦青森大会	青森空港	MFJ青森県スポーツ委
"	秋田県MX大会第1戦	A.L秋田	MFJ秋田県スポーツ委
"	関東MX選手権第5戦	富士	MFJ城北ブロックR
"	新潟県MX大会	川西町	関東信越新潟県支部
21日	宮城県MX第3戦	未定	MFJ宮城県スポーツ委
"	岩手県MX第2戦一戸大会	一戸MX	MFJ岩手県スポーツ委
"	西日本MX第4戦山陰大会	A.L山陰	MFJ鳥根県二輪車協会
"	四国MX第3戦九尾大会	丸亀特設	MFJ四国地方本部
28日	福島県MX第2戦高森大会	高森SL	MFJ福島県スポーツ委
"	関東MX選手権第6戦 (東京ダイナミック第4戦併催)	S.P埼玉	グループ日新
"	全日本MX第4戦九州大会 (ノービス大会併催)	星野特設	MFJ九州地方本部

◆ロードレース(MFJ)

3日	菅生国際ビックレース	菅生	スポーツランド菅生
7日	全日本第4戦筑波2&4	筑波	日本オートスポーツC

◆トライアル(MFJ)

3日	岩手県トライアル第2戦花巻大会	三ツ沢川	MFJ岩手県トライアル委
7日	埼玉県トライアル第2戦	東松山市	チームエスベラント
"	中部トライアル第5戦	A.L浜松	豊橋モンスター
"	(三河トライアル第4戦併催)		
"	西日本トライアル第5戦広島大会	A.L高屋	MFJ西日本スポーツ委
"	四国トライアル第4戦高知大会	正運寺	MFJ四国地方本部
"	新潟県トライアル第1戦		新潟とっぷとらいあるす
14日	東北トライアル第2戦	月先川原	MFJ山形県スポーツ委
"	全日本トライアル第6戦関東大会	吉岡村	MFJ関東信越TR委
"	三重県トライアル第5戦	見当山	トライアルクラブ三重
21日	全道トライアル第1戦札幌大会	札幌市郊外	北海道モーターサイクル協会
"	宮城県トライアル第2戦	未定	MFJ宮城県トライアル委
28日	北陸トライアル第1戦富山大会	海老坂	レッドアローRC
"	スズカサンデートライアル	鈴鹿	トム&ジュリー
"	関西トライアル第4戦	神戸市郊外	MFJ関西トライアル委

◆MCF AJイベント

7日	MX日本選手権シリーズ③	FISCO	神奈川県支部
14日	スピードスクランブル④	所沢	東京都支部
"	エンジンバトトライアル⑤		神奈川県支部
21日	第12回FNGCロードレース②	FISCO	MCF AJ
"	新潟モトクロス①	川西	新潟県支部

イベントに合わせてモータースポーツ見物ツーリングなどを組んでみたら
いかがでしょう。それがきっかけとなって、モータースポーツに加入される
お客さまが現われるかも。またお店で計画のスポーツイベントをご連絡くだ
さい。誌面でご案内いたします。宛先は前ページ左上にあります。



ロニカ社の主催したイベント。
人口約40万、オートバイの市場と
してはこじんまりとしたものでは
インポーターの販促活動はなかなか

活発かつ効果的で、昨年の販売ト
タルは1600台、マーケットシエ
ア75%という実績をあげました。
この曲乗りショーも同社のヤマハ

イメージアップキャンペーンの一環
として催されたもので、TYマシン
を操るベテラン・スタントスター連
の妙技が観衆を酔わせました。

店内外から呼びかけよう。安全第一

お店にとって乗り方指導—— それはアクセルとブレーキのように 切っても切れない関係なのです。

原付バイクの普及に代表されるバイク需要の増加傾向の中で、いま、注目を集めているのが安全運転推進活動の展開です。なかでも原付ユーザーに対する乗り方指導の徹底は急務、まさにお店での心のこもった安全運転教育がもとめられているのです。



原付バイク・ユーザーの大半はクルマ社会の1年生という事実

ソフトバイクが普及するにつれ、バイクユーザーの中には今までバイクにまったくなじみのなかったお客さまが増えています。これらのお客さまは、いずれにしても交通社会へ歩行者の立場でしか参加していなかった人たちばかり。たとえ、自転車には乗っていても、バイクやクルマの立場に身を置いたことがない、いわばクルマ社会の1年生なのです。

ゆえに、その大部分が乗り方指導をのぞんでいるという事実

この1年生たちは、したがってたとえ原付免許試験に合格していても、2年生や3年生のように知識がそのまま形に身についているというわけではありません。交通標識のそれぞれの意味は理解することができても、クルマ社会に即、順応できるわけではない。これと同じように、バイクの乗り方を頭では理解できても、実際に乗りこなすことができるまでには適切な指導を必要としている人たちがかなりなのです。

その中で、ヤマハの“やさしい乗り方の手ほどき”が人気を集めているという事実

そんなお客さまを対象とした乗り方教室の

数々。なかでも、やさしく覚えやすいと受講生の間で評判なのが、ヤマハがお店の皆さまのご協力のもとに展開している“やさしい乗り方の手ほどき”です。短い時間でラクに覚ええられる方式として採用したTWI（トレーニング・ウィズ・インダストリー）の原則。いわゆる、主なステップをひとつずつ区切りそのステップごとに①説明する、②やってみせる、③理解したかどうか確認する、④やらせる、⑤悪い点を修正する、の順序で教える方式が人気を呼んでいるのです。



大人数を対象とした乗り方教室には、その運営から指導にいたる解説が行なわれている“ヤマハ原付乗り方教室・指導の手引き”を

手頃な空地で短時間に行なえる乗り方指導の要領を解説した“やさしい乗り方の手ほどき”。

いまや、お店にとって乗り方指導は切っても切れない関係にあるという事実

クルマ社会における原付バイク・ユーザーの占める位置が大きくなるにつれ、真価が問われる彼ら1年生に対する交通安全教育。さらに新しいユーザーが誕生していく中で、これらの“やさしい乗り方の手ほどき”は地域に密着したかたちでの浸透がもとめられているわけですが、この窓口として最も身近な位置に置かれているのが、バイクの販売にたずさわる皆さま方のお店なのです。



5月3日話題のSUGOへ。

第3回TBCビッグロードレースF750 雨天決行 開場：AM8:00

’78年前半の国内モータースポーツの話題を独占して3回目を迎えた「TBCビッグロードレースF750」の開催です。レース格式も国際的なレースに成長、750ccスーパーレーサーを駆る、内外のトップライダーの激突にご注目ください。これもまた「ヤマハスポーツ新時代」の一端です。

●主催：東北放送 菅生スポーツクラブ ●後援：スポーツランド菅生 ●協力：平凡パンチ ●協賛：日本チャンピオン

アトラクションも、もりだくさん

平凡パンチ創刊700号記念

TBSラジオ公開録音「ザ・パンチ、パンチ、パンチ」
パンチガール決勝大会
F1マシン展示会

※前売り券好評発売中。お問い合わせご予約は、ヤマハ発動機(株) 仙台支店内・芳生仙台営業所、東京支店内・菅生東京営業所および菅生現地(☎022483-3111)へどうぞ。



ハイッ、こちらサービスセンター



春は一足とびでやってきました。とくに北国の春は、滴を持っていたかのように訪れるとか。それだけにご商売のほうは新車販売にサービスに、それこそ戦場のような忙しさを呈するとか。そんなときに役立つクイックサービスを集めてみました。みなさまの体験談をどしどしお寄せください。

〒438 静岡県磐田市新貝2500
ヤマハ発動機株式会社 営業部PR課
「ヤマハニュース」係
☎(05383)2-1111 内線355

3分間寝かせなさいヨ。

ながらく放置されていたクルマの場合、キャブレターのフロートチャンバーのガソリンが腐ってしまい、始動に手古ずかることがままあります。ガソリンが腐るといっても、物が腐るのとちよつと違い、ガソリンの揮発分がとんで、いわゆる酸化して燃料の用をなさなくなってしまうことをいふのですが、このガソリンを取除くためにフロートチャンバーを分解するという手間をかけている人が多いようです。

もちろんキャブレターのフロートチャンバーにドレンのあるものは、ドレンを開ければ一発でOKですが、小型のバイクではこれがないものがあります。したがって、フロートチャンバーを開けることになるのですが、私

ならそんなことはしません。クルマを3分間寝かせてしまふ、これですべてOKです。つまり、クルマを寝かせることによってフロートチャンバーのガソリンをオーバーフローさせ、外に流し出してしまうというわけ。お客さんの前ではけつて見せられる作業じゃありませんが、私のクイックサービスのひとつです。えつ、バッテリーはどうするつて？ 新車にはバッテリーはついてませんよ。もちろん液入りバッテリーが取付けてあるものではバッテリーは取外さなさいけません。

ちよつと頭を回わしてやりましょう

キャブレターのパーツ交換というつ、ふつうの人はセオリ一通りに取外し、それから分解ということになりませんが、必ずしも取外さなくてもできます。だれもがやっていますのはスロットルバルブの取外し。これは取付けたままで十分



に作業できますが、フロートチャンバー側となるため取外しにかなりですが、キャブレターを取付けている止め輪のネジをゆるめ、キャブレターを手前に回せばそれで、うしろ側は外せるというわけ。パイロットジェットなど簡単に取外して点検できます。

強制排除という手はいかが

なにか新聞で見る過激派対策の見出し文句のようですが、ほかでもありません。キャブレターの掃除法のひとつです。

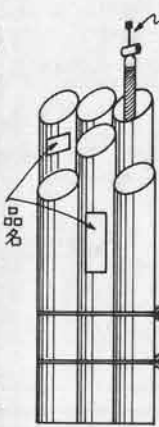
操作は簡単、エンジンをパワーツと全開に吹かして、手の平で空気取入れ口をビタ

これは便利、重宝です

バイクにはブレーキ、クラッチ、スロットルなど各種のワイヤー（ケーブルともいいます）が使われています。そして、ワイヤーというのだがクルクルまるめて置いてあるというのがその収納方法。だから、急にお客さんがとびこんできても、どれが目当てのワイヤーかすぐには分からない。そんな経験はだれもお持ちのことでしょう。ここに紹介するのはそんなワイヤーの能率的な収納方法。

その1. 雨どいにつながらるプラスチックのパイプ、あれを1メートルちよつとに切つてそれを筒がわりにワイヤーを入れておく。ワイヤーの長さはバッテリーのリアブレイキ用でインナーこみで170センチ、ミニトレグT用のフロントブレイキ用で95センチ、それぞれ長さに合わせて5、6本、たばねておけばこれでもう十分。立派なワイヤー収納ケースとなります。

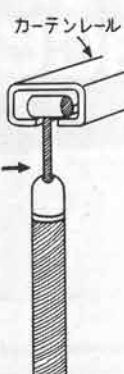
ワイヤーを入れる



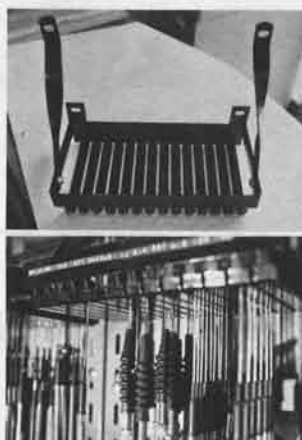
その2. カーテンレールを代用するのつ一法です。プラスチック製、スチール製、どちらでも応用できます。カーテン吊りのリングが挿入されている部分にワイヤーのタイコを入れてもよく、またカーテン吊りのリングに工作してタイコをひっかけてもよいでしょう。棚の下側にも取付ければ場所もとらず、

ッと蓋しちゃうんです。そうすると負圧がかつて手の平がびつしり濡れるくらいガソリンが吹きだしてくる。これを2、3度くり返しやってやるんです。急激に吸い込まれるガソリンの圧力で、ジェット類にからまつていたゴミの類が洗い出されるというわけ。もちろん、これをやるからにはキャブレターとエアクリーナーをつなぐパイプは外しておかなくてははいけません。つまり気味のものはこの手ではいけない掃除です。ただし、ジェットニードルが白く粉をふいていたり、ベターツと緑青が出ているものはダメ。そこまでは強制排除できません。

見場もわるくありません。



その3. ヤマハ東京・城南営業所の部品課では、独自のワイヤーハンガーを使つて処置しています。写真がその例で、ヤマハパーツマンのアイデアを商品化させたもので、市販にも応じています。（頒価2000円）。



注意

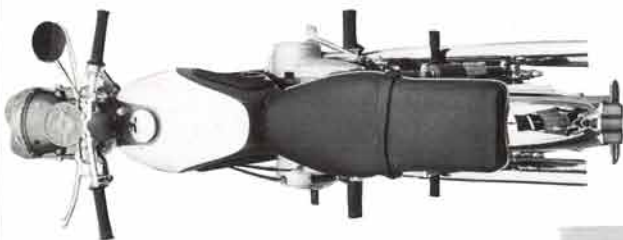
ワイヤーを吊下げて処置しておく場合、完成時に給油されているオイル分がさがつて潤滑切れとなります。取付けの際は必ず給油する必要がありますのでご注意ください。

これは便利、重宝しています。という例がありました。なら、ぜひご紹介ください。連絡先は上に表示の「ヤマハニュース」係、または担当のセールスマンにちよつと声をかけてください。

1959年(昭和34年) 7月発売 YDS1



当時のファンを熱狂させた「YDS1」。初期のモデルでは前輪フェンダーの支持ステーは前後を直線的に結んでいた



◎真上から。ハンドルバー、レバー類の処理に強烈なスポーツ車ムードが漂っている。メーターデザインが独特だ
 ◎YDS1の取扱説明書から。スクランブラーにもスピードレーサーに使えるマルチパーバースブリがうかがえる



●1980mm ●全幅615mm ●全高950mm ●シート高750mm ●軸間距離1285mm
 ●最低地上高140mm ●乾燥重量138kg ●装備151kg ●2サイクル2気筒並列前傾246cc(56×50mm) ●圧縮比8.0 ●最高出力20PS/7500rpm
 ●最大トルク1.9kg・m/6000rpm ●変速機5段踏込み蹴上げ式 ●最高速度140km/h以上 ●定地燃費40km/ℓ(40km/h) ●実用燃費30km/ℓ
 ●前輪支持テレスコピックオレオ ●後輪支持インギングアームオレオ ●タイヤ寸法前後とも3.00-18 ●始動方式キック ●燃料タンク容量15.5ℓ(混合燃料20:1) ■1959年7月より発売し、1962年(昭和37年)3月にYDS2となり、1964年(昭和39年)6月YDS3に発展。260YESはYES2を経てYMIとなる。

日本で初めて本格的なスポーツ車として市場にデビューした車、それが「ヤマハ250スポーツYDS1」である。昭和32年、浅間高原に未舗装路ながら専用コースを開設した業界は、この年10月、「第2回浅間火山レース」を開催。125cc級、250cc級レースに参加したヤマハは125cc級で1、2、5位で2連勝、初出場の250cc級では1、2、3位を独占するというはなばなしい成果をあげ、翌33年にはアメリカのカタリナレースにも遠征し、日本車として初めて海外レースに入賞するという成果をあげた。

こうして得た技術力をベースに、スポーツ車時代の到来を予測して市販にふみきった第一号のスポーツ車がこの「YDS1」で、「スポーツ車のヤマハ」を世に定着させた記念すべき第一号車となったのである。

ダブルクレードルのがっちりしたフレームにのせられたエンジンはシヨートストロークの246cc、出力は20馬力/毎分7500回転と、リッター80馬力に相当するハイパワーを誇った。これはもちろん当時の最強のもので、平均出力が50・8馬力/ℓであることを

思えば、まさに驚異的でした。加えてミッションは国産車としては初めての5速が標準仕様で、明るいオレンジにホワイトクリームの2トーンカラーの疾駆ぶりは、S1サウンドの排気音と共にバイクファンの目と耳をつよくとらえたものである。

またこの「YDS1」には、これまで一部の外車でしかお目にかかれなかったタコメーター、トリップメーターも装備され、上下にユニットされたその独特のメーターデザインと小粋な小型風防がファンの心をとらえた。さらにユニークなことは、スクランブラーおよびスピードレーサー用のキットを用意して発売されたことで、クラブマンレースと共催された「第3回浅間火山レース」には大型の赤いレース用タンクをつけた浅間レース出場車の姿が話題的であった。

この「YDS1」に次いで255cc(57×50mm)の「YES1」が市販に入ったのは11月のこと。なおYDSシリーズはS2、S3とつづき、S2でフロントブレーキが2リードインギングとなり、S3でオートブレーキが装着されることになる。

アルバム拝見・ひとこと拝聴

東京都台東区入谷2-27-10 磯貝モータース 磯貝 宏氏

「YDS、S1(エスワン)、懐しいクルマですね。私が自分の店をもったのがヤマハが生まれた年の昭和30年。それくらいのおつき合いですから、ヤマハの車で知らないものはまずありません。それが私のヤマハに対する自慢です。とにかくクルマが好きで、昭和9年、16のときに免許をとっていろいろ乗りつづけていますが、ヤマハについていえば、いろいろとさまざまな思い出があります。

S1は、本当によく走った。パワーとこもった排気音からギューンと伸びる出足の鋭さ、いまま身体の中に甦ります。商売としてはいろいろと手をかけさせられもしましたが、S2、S3と順次によくなって、ヤマハスポーツ時代をつくりましたからね。よく売らしてもらいました。うちのオストリッチクラブが出来たのがMCFAJと同じ昭和33年ですが、当時は100km/hがひとつの目安で、駈鳥が100km/hだっているうんでオストリッチの名があるんですが、YDSに次いで出たYESがクラブマンの常連の足となり、西に東に、走りに徹して楽しんだものです」



◎「当時はこんなスタイルだったんですよ」と昭和34年当時の磯貝さん

◎昭和37年、S2当時のツーリング。すでにヘルメットを着用した磯貝さん。上下皮製のウェアに、クラブのシンボル、ベストを着込んでモダンなスタイルだ

今の愛車は3月10日発売と同時に登録したSR400と、なんとGS2E180cc



